

国語科学習指導案（例）

日	時	平成〇年〇月〇日（ ）第〇校時
学年・組	〇〇科〇年〇組	（男子〇名、女子〇名）
教科書	国語総合（〇〇出版）	
指導者	教諭 〇〇〇	

1 単元名 古典に親しむ—朗読台本の作成を通じて—

2 教材名 『平家物語』『木曾の最期』

3 単元の指導目標

- (1) 朗読台本の作成や朗読などの言語活動を通して、作品を読み味わわせ、古典世界への親しみを深めさせる。
- (2) 朗読台本の作成や朗読などの言語活動を通して、合戦の場に描き出される登場人物の行動や心情を読み取り、追体験させる。
- (3) 自己と他者の読みを比較して、その違いに気付かせ、読解を深めさせる。

4 単元設定の理由

高校入学後、生徒が初めて接する長文の古文である。文章は比較的平易であり、物語としての面白さを体験させる教材として適している。『平家物語』はそもそもが「平曲」として語られた「語りもの」であり、文体そのものが音読に適している。特に「木曾の最期」は、合戦場面における登場人物の心情が生き生きと描かれており、音読という言語活動を通して場面や心情を追体験させていくための格好の教材である。

ここでは、分担読み・群読を取り入れるだけでなく、その台本の作成過程を重視し、さらに相互評価における聞き方の指導を充実させることで、「読解を深めるための朗読指導」を行う。

5 生徒の実態

学習態度は比較的良好であるが、主体的に学ぼうとする姿勢が不足している。古典に関しては、1学期に基本事項を学び、歴史的仮名遣いはおおむね理解しているものの、文章を正しく読解し、読み味わうことはできていない。そのため、朗読を主目的とする本単元では、本文の一部に読み仮名や口語訳を施したプリント（1・2）をテキストとした。

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
①「木曾の最期」をさまざまな読み方を通して読むことにより、音声表現の楽しさを味わうとともに、古典世界への親しみを深めようとしている。	①朗読台本及び群読台本の作成や、音読・朗読などを通して、合戦の場に描き出される登場人物の行動や心情をとらえて読み味わっている。 ②自己と他者の読みを比較して、その違いに気付き、読解を深めている。	①語りものとしての『平家物語』の特色を理解している。

7 単元の指導計画と評価計画（全8時間）

時	学 習 内 容	補助教材等	評価計画
1	・義仲の置かれた状況や生き方を理解する。 ・教師の全文朗読を聞き、音読を通して古文への親しみを持つ。 ・追いかけて読みを繰り返す、軍記物語特有の文体（対句・音便・オノマトペ）に慣れ親しむ。 （一次読み・一斉）	プリント1 （音読用テキスト）	関・意・態① 読① 知・理①
2	・段落毎にクラス全員で斉読し、歴史的仮名遣いの読みを確認するとともに、音の響き合いを体感する。 （二次読み・一斉） ・全体の展開（兵の数の変化・状況の変化）と義仲の立場・心情をおおまかにとらえる。	プリント2 （読解用テキスト）	関・意・態① 読①
3	・義仲と巴、義仲と兼平の会話部分に限定し、二人の心情に迫る朗読の仕方とその理由をグループ毎に考え、「朗読台本」にまとめ、音声表現と理解との関係を意識する。 （三次読み・グループ）	ワークシート1（朗読台本用）	関・意・態① 読①
4	・「朗読台本」を基に、グループ毎に朗読を行い、音声表現の楽しさを味わう。 ・3つの場面（①義仲と巴、②義仲を励ます兼平、③義仲を論ず兼平）に分け、グループ毎に群読計画・群読台本の作成を通して分担箇所の読解を深める。 （四次読み・グループ）	ワークシート2 （群読台本用）	関・意・態① 読①②
5	・グループ毎に群読の練習を行い、成果をカセットテープに録音し、「群読台本」とともに提出する。	ワークシート3 カセットテープ	関・意・態① 読①
6	・録音したテープを聞き合い、互いの読解とその表現を評価・批評し合う。（場面1・2） （五次読み・個人～全体）	朗読台本、ワークシート4（評価カード）、カセットテープ	関・意・態① 読② 知・理①
7 本 時	・前時の活動の継続（場面3） ・平曲を聞き、語りものとしての『平家物語』の特色を理解する。 ・これまでの授業の感想をまとめ、音声表現の意義を認識する。	ワークシート5（感想メモ）、平曲CD	関・意・態① 読② 知・理①
8	・全文を振り返り、さらに義仲の「最期の視線」の意味について討論する。 （六次読み・全体）		関・意・態① 読①②

8 本時の指導

(1) 本時の指導目標

- ・音声表現の楽しさを味わわせるとともに、古典世界への親しみを深めさせる。(関心・意欲・態度)
- ・自己の読みと他のグループの読みの違いに気付かせ、読解を深めさせる。(読む能力)
- ・『平家物語』の「語りもの」としての特色を理解させる。(知識・理解)

(2) 本時(第7時)の展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価の実際
導入 5分	前時までの学習内容の復習と本時の学習目標の理解 ①群読の意義と群読台本の作成上の注意を再確認する。 ②教師の説明によって、他のグループの群読を聞く観点を再確認する(「ワークシート4」参照)。	○前時の学習活動である相互評価の内容について講評する。 ○群読の活動が、自己の読み(場面・心情の解釈)の表現であることを確認させる。 ○特徴的な表現に着目し、表現された理由(解釈)を考え、その適否を考えさせる。	
展開 1 5分	群読の発表(場面3) ③グループ5・6の群読テープを聞く。 ④二グループ間の表現の違いや特徴的な音声表現について、「ワークシート4」に指摘事項を記入する(「群読台本」参照)。	○「ワークシート」の「特徴的な表現」の項については、聞きながら記入させる。	読む能力-② 自己の読みと他グループの読みの違いに気付いている。 (ワークシート4の記入状況の確認)
展開 2 5分	群読の評価 ⑤「ワークシート4」を用いて、表現した理由(解釈)を考え、その適否について自分の考えを記入する。 ⑥自分のグループについては、自己評価を「ワークシート4」に記入する。	○机間指導において、解釈上の問題についてはテキストに戻って考えるように指導する。	[努力を要する生徒への指導の手立ての例:具体的な表現の違いや特徴について示唆して考えさせる。]
展開 3 15分	評価についての討論 ⑦表現の違いについて二グループ間で意見を交換する。 ⑧二グループの意見について、全体で討論する。 ⑨その他の特徴的な表現について、全体で討論する。	○解釈上の相違についてなのか、同じ解釈での表現上の相違なのかを区別して議論を展開させる。(ワークシート4を適宜参照させる。)	読む能力-② 解釈の相違点を比較して読解を深めている。 (討論の観察) [努力を要する生徒への指導の手立ての例:「朗読台本」を参照させる。]
まとめ 1 10分	教材の特質についての理解 ⑩平曲のCDを聞く。 ⑪平曲と群読の共通点について考え、「ワークシート5」にまとめる。 ⑫自分の考えを発表する。 ⑬「語りもの」としての『平家物語』について解説を聞き、『平家物語』の特色を理解する。	○自分たちの行ってきた群読の活動と平曲との共通性に気付かせ、音声による表現・享受が本来的なものであることを理解させる。	知識・理解-① 『平家物語』の「語りもの」としての特色を理解している。 (ワークシート5の記入状況の確認) [努力を要する生徒への指導の手立ての例:平曲の特徴的な部分を示唆して考えさせる。]
まとめ 2 8分	音声表現の意味についての理解 ⑭単元の学習全体を通して、音声で表現することの意味をどのように考えたか、「ワークシート5」に記入する。 ⑮自分の考えを発表する。	○7時間の学習全体を振り返って考えさせる。 ○他の教材での今後の古典学習においても朗読が大切であることを自覚させる。	関心・意欲・態度-① 音声表現の楽しさを味わうとともに、古典世界への親しみを深めようとしている。 (ワークシート5の記入状況の確認)
まとめ 3 2分	次時の連絡 ⑯これまでの授業における場面や心情の理解を生かして、朗読学習で扱った場面以外の部分を中心に、全体を再度振り返る。	○兼平との会話を受けて自害に赴いた義仲の心情と「生」のあり方に目が向くよう、読みの方向だけを示唆する。	[努力を要する生徒への指導の手立ての例:黙読との違いについて考えさせる。]

9 資料等(具体例省略)

- ・プリント1、2 ・朗読台本作成例 ・群読台本作成例 ・ワークシート1～5

地理歴史科（地理B）学習指導案（案）

日 時	平成〇〇年〇月〇日（ ） 第〇時限	
学年・組	〇〇科〇年〇組（〇名）	
教 材	教科書名（出版社名）	資料名（出版社名）
指 導 者	教諭 〇〇〇〇	

1 単元 「世界の人口問題」

2 単元の目標

人口問題についての関心を高めさせ、見いだした課題を、地図やグラフを活用して多面的・多角的に追究させることにより、人口増加や人口移動・人口構成には様々な類型があることを理解させるとともに、世界の人口の現状を把握させ、人口問題の地域性をとらえさせる。

3 生徒の実態 [略]

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
人口問題に対する関心と課題意識が高まっている。	人口問題に関する地理的事象から課題を見だし、世界的視野から地域性を踏まえて多面的・多角的に考察している。	人口問題の現状や解決の方向を世界的視野からとらえるために、地図やグラフの読み取り、統計のグラフ化や地図化などを通して、学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。	人口問題は地球的課題であるとともに各地域によって現れ方が異なっていることを多面的・多角的に理解し、その知識を身に付けている。

5 単元の指導計画（4時間）

時	学 習 内 容	評 価 計 画
1	○診断的評価 1 世界の人口の概要	【知識・理解】 ・世界の人口についての基礎的知識がある。 【資料活用の技能・表現】 ・教科書や地図帳の図やグラフを正しく読み取っている。
2	2 人口増加の型と性別・年齢別人口構成	【資料活用の技能・表現】 ・人口ピラミッドから人口構成の特色を読み取ったり、統計をもとに人口ピラミッドを作成したりしている。 【思考・判断】 ・人口ピラミッドをもとに、その国の人口についての状況を考察している。
3 (本 時)	3 産業別人口構成 4 インドの人口問題	【資料活用の技能・表現】 ・産業別人口構成のグラフから特色を読み取ったり、統計をもとに産業別人口構成のグラフを作成したりしている。 【知識・理解】 ・インドの人口の特徴を理解している。 【思考・判断】 ・人口急増の背景とそれがもたらす影響について多面的・多角的に考察している。
4	5 スウェーデンの人口問題 ○自己評価	【知識・理解】 ・スウェーデンの人口の特徴を理解している。 【思考・判断】 ・少子高齢化の背景とそれがもたらす影響について多面的・多角的に考察している。 【関心・意欲・態度】 ・人口問題に対する関心と課題意識が高まっている。

6 本時の目標（第3時）

- (1)産業別人口構成のグラフから特色を読み取ったり、統計をもとに産業別人口構成のグラフを作成したりする。
 (2)インドの人口の特徴を理解し、人口急増の背景やその影響について考察する。

7 本時の指導

	学 習 内 容	学 習 活 動 [使用教材等]	指導上の留意点	評 価 [評価方法]
導入 5分	前時の復習 本時の学習内容の紹介	・人口ピラミッドの各型が示す人口構成の特色について確認する。	・前時の学習内容を理解しているか、ポイントを確認する。	
展開 40分	産業別人口構成	・「おもな国の産業別人口構成」のグラフを見て、中国、ブラジル、インドネシア、日本、フランス、アメリカの産業別人口の割合(%)を読み取り、ワークシートに記入する。 [教科書p〇、ワークシート3] ・統計をもとに、イギリス、キューバ、ドイツの産業別人口構成のグラフを作成する。 [ワークシート3]	・座標軸の見方を説明する。 ・適宜、机間指導により支援する。 ・先進国と発展途上国の違いに気付かせるようにする。	【資料活用の技能・表現】 ・産業別人口構成のグラフから特色を読み取ったり、統計をもとに産業別人口構成のグラフを作成したりしている。 [ワークシート3]
	インドの人口問題	・インドの人口ピラミッドと人口動態のグラフを見て、わかったことをワークシートに記入する。 [記入項目] ①インドの総人口とその変化について ②出生率と死亡率 ③人口ピラミッドが示すこと ④両方の図から考えられること [教科書p〇、ワークシート4] ・インドの人口の特徴を理解する。 ・人口急増の背景や影響について考察する。 [教科書p〇、ワークシート4] [記入項目] ⑤インド政府の政策 ⑥インドの人びとの考え方	・生徒を指名し、記入した内容を発表させる。 ・前時に学習したことを参考にしながら、インドが抱える課題は多くの発展途上国に共通であることに気付かせる。 ・生徒を指名し、考察したことを発表させる。	【知識・理解】 ・インドの人口の特徴を理解している。 [ワークシート4、観察] 【思考・判断】 ・人口急増の背景とそれがもたらす影響について多面的・多角的に考察している。 [発問、ワークシート4]
まとめ 5分	本時の学習のまとめ 次時の予告	・各種人口構成のグラフからさまざまなことが読み取れることを知る。	・次時にも、本時に学んだ手法で考察することに言及する。	

数学科学習指導案（例）

平成〇〇年〇月〇日 曜日 第〇校時
第〇学年〇組 指導者 〇〇 〇〇

I 単元の指導計画・評価計画

1 単元名 図形と計量「三角比と図形」

2 単元の目標

三角形の辺と角の間に成り立つ基本的な関係として、正弦定理、余弦定理を導き、平面図形や空間図形の計量に活用できるようにする。

3 単元観

これまでに、平面図形についての基本的な図形の性質、直角三角形における三角比の意味、それを鈍角にまで拡張する意義などを学習している。

本単元では、これらを踏まえた上で、三角形の辺と角との間に成り立つ基本的な関係として正弦定理、余弦定理を学習する。その際、具体的な場面をそれぞれ設定し、日常生活との結びつきを意識させるとともに、平面図形や空間図形に関する線分の長さ、角の大きさ、面積・体積などの計量に有用であることを認識させる。特に、空間図形に関しては、中学校の学習から図形の切断が削除されたことに配慮し、立体モデルやコンピュータグラフィックなどを活用し、空間認識力を高められるような工夫をしたい。また、正弦定理・余弦定理を三角形の決定条件と関連付けて理解させることによって、演繹的な推論を進めるなどの数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにさせたい。

本単元での学習は、中学校までの図形の学習のまとめであるとともに、数学Ⅱで学ぶ三角関数、図形と方程式、数学Bで学ぶベクトル等を用いた図形の性質や関係を考察するための基礎ともなるので、できるだけ生徒の考えを発表させあう場を設定し、生徒自身に数学を構築させていきたい。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解
㉑ 正弦定理・余弦定理が図形の計量の考察に有用であることと気づき、活用しようとする。	㉒ 正弦定理・余弦定理を導く過程を論理的に考察し、構成することができる。 ㉓ 正弦定理・余弦定理を活用して、辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ㉔ 三角形を決定する条件を考察することができる。	㉕ 三角形の与えられた辺の長さや角の大きさから、正弦定理・余弦定理を用いて、残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。	㉖ 正弦定理・余弦定理を三角形の決定条件として関連付けて理解している。

5 単元の授業計画（学習活動と評価規準のかかり）

時間	学習活動	評価規準とのかかり	評価方法
第1時間 第2時間	○川幅を測定する方法を考察する。 ○1つの角とその対辺、および、他の1つの角がわかっているときに、他の辺の長さを求める解法を一般化し、正弦定理を導く。 ○与えられた条件から正弦定理を用いて、辺の長さや角の大きさ、外接円の半径を求める。	㉑、㉒、㉕	ワークシート、質問紙、机間指導、小テストにより、正弦定理を導く過程の考察の状況や正弦定理の活用の方法を確認する。
第3時間 (本時) 第4時間	○池の端から端までの距離を測定する方法を考察する。 ○2辺とその間の角が与えられたときに、他の辺の長さを求める解法を一般化し、余弦定理を導く。 ○与えられた条件から余弦定理を用いて、辺の長さや角の大きさを求める。	㉑、㉒、㉕	ワークシート、質問紙、机間指導、小テストにより、余弦定理を導く過程の考察の状況や余弦定理の活用の方法を確認する。
第4時間 第5時間 第6時間	○三角形の与えられた辺の長さや角の大きさから、正弦定理・余弦定理を用いて、残りの辺の長さや角の大きさを求める。 ○以下の場合を扱うことにより、正弦定理・余弦定理と三角形の決定条件を関連付ける。 ・1辺とその両端の角が与えられたとき ・2辺とその間の角が与えられたとき ・3辺が与えられたとき ・ $\sin A$ 、 $\sin B$ 、 $\sin C$ の比が与えられたとき	㉒、㉓、㉕、 ㉖	机間指導により、正弦定理・余弦定理を活用した問題解決の状況を把握する。また、いくつかの課題を通して、それぞれの定理が使われる場面について発表させ、考察の状況を把握する。
第7時間 第8時間	○建物の高さを求める課題、正四面体の体積を求める課題に取り組む。	㉑、㉒、㉕	応用課題「問題作り」をレポートにして提出させ、取組の状況を確認する。

6 生徒の実態

(1) 本単元を学習するに当たっての生徒の基礎学力（小テスト等の結果を踏まえて）

- ・全体的に図形に対する抵抗感があり、特に証明など論証を苦手としている。
- ・多くの生徒が、数学A「平面図形」において図形に対する数学的な見方、知識を獲得している。
- ・三角比の定義（ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ ）、三角比の基本的な相互関係について理解はおおむね良好である。

(2) 数学に対する生徒の興味・関心及び学習態度

- ・数学を演繹的に指導するよりも、操作活動を多く取り入れた授業の方が、興味・関心を喚起することができる。
- ・演習等は指示をすれば意欲的に取り組むが、自分の考え方を発表したりすることは苦手である。
- ・多くの生徒が家庭での学習が不足しているため、基礎学力の定着が十分でない。

II 本時の計画

1 本時（第3時間目）の目標（評価規準）

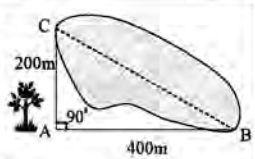
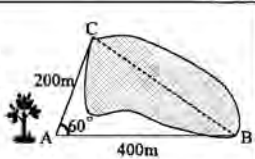
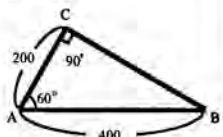
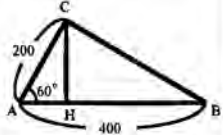
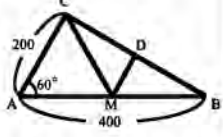
- 余弦定理が図形の計量の考察に有用であることに気付き、活用しようとする。(㊶)
- 余弦定理を導く過程を論理的に考察し、構成することができる。(㊶)
- 三角形の与えられた辺の長さや角の大きさから、余弦定理を用いて、残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。(㊶)

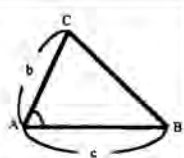
2 本時のポイント

余弦定理を導く過程を論理的に考察することについては、授業中の発問に対する反応やワークシートの記述内容、自己評価シートをもとに、どのような解法をしているかを確認する。また、余弦定理を用いて残りの辺の長さを求めることについては、机間指導によって、図形の把握、定理の把握の状況を確認するとともに、小テストによって把握する。

3 本時の展開

□ …課題等 □ …発問

指導内容	学習活動（課題、発問、活動等）	指導上の留意点
・前時の課題の確認	<p>課題1</p> <p>池の端から端までの長さ（最短距離）を測ろうと思います。</p> <p>木(A地点)から両端(B地点、C地点)までの距離を測ってみると、$AB=400\text{m}$、$AC=200\text{m}$でした。そして、Aから見るとちょうど90°の方向にBとCがあります。BからCまで何mでしょう?</p>  <p>【予想される生徒の解答】</p> <p>$\triangle ABC$は$\angle BAC = 90^\circ$の直角三角形だから 三平方の定理より$BC^2 = AB^2 + AC^2$が成り立つ。 $BC^2 = 400^2 + 200^2$ $= 200000$ $BC > 0$より $BC = \sqrt{200000} = 200\sqrt{5}$</p>	<p>ワークシートの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時にワークシートを配付し、課題1、課題2を解いてくるよう指示する。 ・できるだけ複数の解法で解くよう指示する。 <p>・別の解法で考えた生徒に板書させる。同じ解法であっても、表現の異なるものについては、取り上げ、検討する。</p>
・前時の課題の確認	<p>課題2</p> <p>1ヶ月たって、その池を見に行くと日照りが続き池が干上がって、AからBとCを見ると今度は60°の方向になっていました。このとき、BからCまで何mでしょう?</p> 	<p>ワークシートの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題1と同様、できるだけ複数の解法で解くよう指示する。
・課題解決に向けての活動	<p>【予想される生徒の解法】</p> <p>(解法1) 60°を挟む2辺が200mと400mなので、辺の比が1:2である。 したがって、$\triangle ABC$は$\angle ACB = 90^\circ$の直角三角形である。 よって、$AC : BC = 1 : \sqrt{3}$ だから、 $BC = AC\sqrt{3} = 200\sqrt{3}$</p> <p>(解法2) 補助線を引いて直角三角形をつくれればよい。点Cから辺ABに垂線を下ろし、その交点をHとする。 $\triangle ACH$において $CH = 200\sin 60^\circ = 100\sqrt{3}$ $AH = 200\cos 60^\circ = 100$ したがって $BH = AB - AH = 300$ $\triangle BCH$は、$\angle BHC = 90^\circ$の直角三角形だから三平方の定理より$BC^2 = BH^2 + CH^2$が成り立つ。 $BC^2 = 300^2 + (100\sqrt{3})^2 = 120000$ $BC > 0$より $BC = \sqrt{120000} = 200\sqrt{3}$</p> <p>(解法3) 点Cと辺ABの中点Mを結ぶ。 $\angle MAC = 60^\circ$、$AM = 200$であるから、$\triangle ACM$は正三角形である。 また、$BM = CM = 200$であるから、$\triangle BCM$は、$\angle BMC = 120^\circ$の二等辺三角形になる。 点Mから辺BCに垂線を下ろし、その交点をDとすると、$\triangle BMD$は、$\angle BDM = 90^\circ$、$\angle BMD = 60^\circ$の直角三角形であるから、$BD = 100\sqrt{3}$となる。 したがって $BC = 2BD = 200\sqrt{3}$</p>	<p>・異なる点、同じである点を挙げさせることによって、2辺とその間の角が分かっていることを確認する。</p> <p>・別の解法で考えた生徒に板書させる。 (解法1の図)</p>  <p>(解法2の図)</p>  <p>(解法3の図)</p>  <p>・様々な解法を取り上げると共に、それぞれの考え方のよさを実感させる。</p>

指導内容	学習活動（課題、発問、活動等）	指導上の留意点
<p>・余弦定理の理解（一般化）</p> <p>・本時のまとめ</p>	<p>(解法1)から(解法3)の中で、$\angle BAC$の大きさが変わっても使える解法はどの解法だろうか。使えない解法の理由も考えてみよう。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(解法1)は、$\angle BAC = 60^\circ$であることを使って、$\triangle ABC$が直角三角形であることを導いているから、$\angle BAC$の大きさが変わると使えない。 ・(解法2)は、$\angle BAC$の正弦、余弦の値を使って求めている。正弦、余弦の値は、三角比の表を使えば求めることができるから、$\angle BAC$の大きさが変わっても使える。 ・(解法3)は、$\angle BAC = 60^\circ$であることを使って、$\triangle AMC$が正三角形であることを導いているから、$\angle BAC$の大きさが変わると使えない。 <p>課題3</p> <p>2辺とその間の角を使って、残りの辺の長さを表してみよう。$AC = b$、$AB = c$、$\angle BAC = A$のとき、$BC(a)$の長さを、b、c、Aを用いて表してみよう。</p>  <p>(解法2)を確認しながら、各自で取り組んでみよう。</p> <p>○点Cから辺ABに垂線を下ろし、その交点をHとする。</p> <p>$\triangle ACH$において $CH = b\sin A$、$AH = b\cos A$ したがって $BH = AB - AH = c - b\cos A$ $\triangle BCH$は、$\angle BHC = 90^\circ$の直角三角形だから 三平方の定理より $BC^2 = BH^2 + CH^2$が成り立つ。 $a^2 = (c - b\cos A)^2 + (b\sin A)^2$ $= b^2 + c^2 - 2bccosA$</p> <p>課題2をこの式にあてはめて、求めた式が正しいかどうか確かめてみよう。</p> $BC^2 = 200^2 + 400^2 - 2 \cdot 200 \cdot 400 \cdot \cos 60^\circ$ $= 120000$ $BC > 0 \text{ より } BC = \sqrt{120000} = 200\sqrt{3}$ <p>余弦定理 $\triangle ABC$において、次のことが成り立つ。 $a^2 = b^2 + c^2 - 2bccosA$ $b^2 = c^2 + a^2 - 2cacosB$ $c^2 = a^2 + b^2 - 2abcosC$</p> <p>練習 次のような$\triangle ABC$において、指示されたものを求めなさい。 (1) $b = 4$、$c = 5$、$A = 60^\circ$のとき、辺BCの長さaを求めなさい。 (2) $a = 3$、$c = 2\sqrt{2}$、$B = 45^\circ$のとき、辺ACの長さbを求めなさい。</p> <p>○自己評価シートの記入</p>	<p>・すぐに分からない場合は、$\angle BAC$に具体的な角度をあてはめて考えさせる。</p> <p>・それぞれの解法のよさを振り返りながら、なぜ使えるのか、なぜ使えないのかを考えさせ、多くの発言を求める。</p> <p>・課題2の解法2を確認させながら、時間を与えて、生徒自身に解決させ、その後、生徒の発言によって進めていく。</p> <p>・解決の途中で、それぞれの値は何のために求めるのかを確認しながら進める。</p> <p>・式だけでなく、図と関連させながらまとめる。</p> <p>・式だけでなく、図と関連させることによって、第2式、第3式を生徒から導く。</p> <p>・必ず、図をかかせ、図上で確認させながら解答させる。</p> <p>自己評価シートの利用</p>

高等学校理科（化学Ⅰ）学習指導案（例）

学校名：〇〇高等学校
 対象クラス：〇〇科 〇年〇組（男子〇〇名，女子〇〇名 計〇〇名）
 実施日時：平成〇〇年〇月〇日（〇） 第〇時限（〇〇：〇〇～〇〇：〇〇）
 使用教室：化学実験室 授業者：〇〇〇〇
 使用教科書：『化学Ⅰ』〇〇出版

単元名	金属元素
単元の目標	金属元素の性質や変化を観察，実験などを通して探究し，物質に関する基本的な概念や法則を理解させるとともに，それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。
内容及び配当時間	金属元素 <ul style="list-style-type: none"> — アルカリ金属とその化合物（2）（本時は2時間目） — 2族元素とその化合物（2） — 1，2族以外の典型元素（3） — 遷移元素とその化合物（5） — 金属イオンの検出と分離（2） — 金属元素についての探究活動（2）
指導方針	<ul style="list-style-type: none"> ・実験，観察を通して，金属元素の単体と化合物について，物理的・化学的性質を理解させる。 ・周期表上における元素の位置と性質を関連付けて理解させる。 ・代表的な金属元素について，化学工業とのかかわりを紹介し，日常生活と関連付ける。

○単元の観点別評価規準と評価方法

観点	(1) 関心・意欲・態度	(2) 思考・判断	(3) 観察・実験の技能・表現	(4) 知識・理解
評価規準	○単元名：金属元素			
	<ul style="list-style-type: none"> ・金属単体や化合物の性質や反応に関する事象・現象に関心をもち，それらに関する基本的な概念や法則を意欲的に探究しようとする。 ・金属単体や化合物について観察，実験を行うとともに，それらを日常生活と関連付けたり，化学工業と関連付けて意欲的にそれらを探究しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金属単体や化合物の性質や反応などを，周期表と関連付けて考察する。 ・日常生活とかかわりの深い金属単体とそのイオンについて，観察，実験などを行い，規則性を見出したり，様々な事象・現象の生じる要因や仕組みを科学的に考察する。 ・金属と化学工業との関係を様々な視点でとらえ，金属の工業的製法などを科学的に考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金属単体や化合物の性質や反応に関する観察，実験を行い，その基本操作や記録の仕方を習得する。 ・金属単体や化合物に関する観察，実験の過程や結果から自らの考えを導き出し，的確に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金属単体や化合物の性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則及び周期表との関係を理解し，知識を身に付けている。 ・金属単体や化合物について日常生活及び化学工業に関連付けて理解し，知識を身に付けている。
	○金属元素の種類と性質に関する探究活動			
	<ul style="list-style-type: none"> ・金属元素に関連した学習課題に対し，科学的な態度で観察，実験，調査などを行い，意欲的に探究しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金属元素に関連した学習課題に対し，科学的な態度で観察，実験，調査などを計画実施して，得られた結果に基づき，総合的に考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金属元素に関連した学習課題に対し，科学的な態度で観察，実験，調査などを探究の方法を用いながら行い，その技能を習得する。 ・観察，実験のデータや様々な情報を基にして，創意ある報告書を作成したり，発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察，実験，調査などを通して，金属元素に関連した学習課題に対し，基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・ノート ・実験レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・ノート ・実験レポート ・テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験レポート ・テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト ・レポート ・ワークシート

○「金属元素」の評価計画表

時間	学習内容	ねらい	単元の評価規準との関連 (どの観点に重点をおくかを◎, ○で示した)				評価方法等
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
2	アルカリ金属とその化合物	・アルカリ金属の単体の性質、化合物の性質を理解する。	◎		○	○	・ワークシート ・ノート ・実験プリント ・テスト
2	2族元素とその化合物	・2族元素の単体の性質、化合物の性質を理解する。	◎		○	○	・ノート ・実験プリント ・テスト
3	1, 2族以外の典型元素	・アルミニウム・亜鉛などの単体の性質、化合物の性質を理解する。	○	◎		○	・ノート ・実験プリント
5	遷移元素とその化合物	・遷移単体の性質、化合物の性質を理解する。	○		◎	○	・ノート ・実験プリント ・実験レポート
2	金属イオンの検出と分離	・各金属イオンの性質をもとに、金属イオンを検出したり、分離する方法を理解する。	○	◎	◎	○	・実験レポート ・行動観察
2	金属元素についての探究活動	・今までの学習をもとに、2種類の金属陽イオンを含む溶液から、それぞれの陽イオンを化学的に分離する方法を考え、実験し、確認する。	○	◎	◎	○	・実験レポート ・感想文用紙

○本時の展開

項目	アルカリ金属の性質			
本時の目標	①金属ナトリウムの化学的性質についての観察、実験に意欲的に取り組む。(関心・意欲・態度) ②アルカリ金属の化学的性質を周期表と関連付けて理解する。(知識・理解)			
生徒の実態	※生徒の興味・関心、学習態度、学力などについて記述する。			
準備	シャーレ、ろ紙、ピーカー、ピンセット、試験管、試験管立て、ナイフ、マッチ(ライター)、ナトリウム、水、フェノールフタレイン、灯油、防護メガネ			
段階	具体目標	学習内容・活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	○アルカリ金属の性質の確認	○金属ナトリウムを安全に取り扱うのに必要な知識を確認しながら、アルカリ金属の性質について既習事項を確認する。	○既習事項とこれから行う実験の注意事項とを関連付ける。	○金属ナトリウムの性質から、防護メガネの使用や、直接手で触れてはいけない理由を説明できる。 (知識・理解)
展開 3.5分	○実験、観察の方法を金属ナトリウムの性質をもとに理解する。 ○金属ナトリウムの化学的性質について実験、観察を通して確認し、理解する。	○学習プリントで、実験操作、手順を理解、確認する。 【操作1】 ①灯油内のナトリウムの観察 ②ろ紙上に取りだし、ナイフで切ったときの切り口の観察とその後の変化 ③水に入れたときの様子の観察 ④水素の発生の確認 ⑤水溶液の液性の確認 【操作2】 ・濡れたろ紙上のナトリウムの様子の観察	○実験実施上の注意を徹底させる。 ○実験班を回り、実験が安全に行われているかを確認する。 ○実験、観察の結果を的確に表現させる。 ○白煙は、ピーカーごとドラフトに運び、処理する。	○予想を立てながら、目的意識を持って観察や実験ができる。 (関心・意欲・態度) ・ナトリウムと灯油との密度に関する気付き。 ・金属光沢の確認 ・空気中での酸化の確認 ・ナトリウムと水の密度に関する気付き ・ナトリウムと水が反応してできた物質への興味・関心 ・発火したナトリウムの炎色反応に対する気付き
まとめ 1.0分	○アルカリ金属の化学的性質について理解する。	○実験プリントをまとめ、考察する。 ○金属カリウムの性質を演示実験で確認する。 ○金属の性質とアルカリ金属の特有の性質について学習プリントにまとめる。 ○実験等についての感想を書く。	○考察した内容を的確に表現させる。 ○金属カリウムの周期表上の位置を確認し、性質を確認する。 ○時間に余裕がある場合には、金属ナトリウムの製法、用途について触れる。 ○実験プリントは提出させる。	○金属カリウムの反応を予想できる。 (関心・意欲・態度) ○提出された実験プリントの評価 ・実験、観察について、その過程や結果を的確に記入している。 (実験の技能・表現) (関心・意欲・態度)

保健体育科（体育）学習指導案（例）

栃木県立〇〇高等学校

教 諭 〇〇 〇〇

- 1 日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇曜日） 第〇時限
- 2 場 所 柔道場
- 3 学 習 者 〇〇科〇年〇、△組 〇〇名（男子〇名、女子△名）
- 4 教 科 書 等 保健体育（〇〇出版）
- 5 単 元 名 柔道
- 6 単元の指導観

(1) 一般的特性からみた指導観

武道は、我が国固有の文化として伝統的な行動の仕方が重視される運動である。柔道では、投げたり投げられたりなど相手があって初めて自分の身体や精神を高めていくことができることを練習や試合をとおして理解させ、互いに相手を尊重する態度の表れとしての礼儀作法や公正な態度を身に付けさせたい。

柔道は、素手で相手と直接組み合って技を競い合うという格闘形式の運動であり、自分の体格や体力に応じて相手の動きを利用しながら相手を投げたり抑え込んだりするところ楽しさや喜びを味わうことができる。これらの運動をとおして、相手を制するための筋力をはじめ、タイミング良く技をかけるための巧緻性、素早く技をかけるための敏捷性、身を守るための柔軟性など、様々な体力要素を高めていきたい。

(2) 学習者の実態からみた指導観

1年次の学習において、中学時代に柔道を選択していた者が多く高校で初めて柔道を学ぶ生徒が少数であったため、十分に目を行き届かすことができ、基礎的・基本的な技能の習得が十分に図れた。今年度は、崩しや体さばきと技との関連など技の成り立ちや合理性を学習させる中で、技の洗練と得意技の習得を図り、試合へと発展させ、勝敗を競い合うことの楽しさや喜びを味わわせたい。また、十分な技の洗練から3年次に行う「形」の学習に繋げることによって柔道の特性に大いに触れさせたい。

得意技の習得の際には、選択する技ごとにグループ学習を取り入れ、課題解決に向けて互いに協力しながら練習を工夫するなど、主体的に学習しようとする態度を育てていきたい。

7 単元の目標

- ・自己の能力に応じて柔道の技能を高め、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができる。
- ・伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、練習や試合ができるとともに、勝敗に対して公正な態度がとれる。また、禁じ技を用いないなど安全に留意して練習や試合ができる。
- ・自己の能力に応じた技を習得するための計画的な練習の仕方や試合の仕方を工夫することができる。
- ・柔道の特性や学び方、技の系統性や構造、合理的な練習の仕方を理解するとともに、試合や審判の方法を理解し、知識を身に付ける

8 単元の評価規準

ア 運動への 関心・意欲・態度	イ 運動についての 思考・判断	ウ 運動の技能	エ 運動についての 知識・理解
①自分の能力に応じた技を習得する喜びや、相手の動きに対応した攻防を展開して競い合う柔道の楽しさを味わおうとする	①自分に合った技を選択し、得意技として身に付けるための課題を設定し、課題解決に適した練習の方法や仕方を選んでいる	①基本動作や対人的技能を洗練し、自分の能力に応じた得意技を身に付けることができる	①武道の伝統的な考え方を理解し、それに基づく行動の仕方を身に付けている
②互いに相手を尊重するなど礼儀作法を重視し、練習や試合に取り組もうとするとともに勝敗に対して公正な態度をとろうとする	②課題の達成状況をとらえ、練習や試合の仕方を見直したり新しい課題を選んだりしている	②相手の動きや技に対応しながら技をかける、防ぐ、返すなどの攻防を展開し練習や試合ができる	②柔道の特性、技の系統性や構造、合理的な練習の仕方について理解している
③用具や服装、練習場などの安全を確かめたり、禁じ技を用いないなど、自他の安全に留意しようとする	③自分や相手の能力、相手の動きや体勢等に応じて有効な技を選んだり、技をかける機会を見付けている		③ルールを理解し、試合の運営や審判の仕方などについて知識を身に付けている

時間	ねらい及び主な学習内容	指導上の留意点	評価の重点		評価規準との関連
			関係	技知	
1 2	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の特性について 単元の目標、単元の学習計画、学習の決まり、学習ノートの記入等、学習の進め方について 集合時の隊形、学習グループの編成 <p>1年次の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> 礼法、伝統的行動様式について 準備運動 受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身） 	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 武道（柔道）について、わが国固有の文化としての意義やよさを詳しく説明する。 単元のねらいと毎時間自分の課題を持つことが必要であることを知らせる。 体格差、体力差を考慮し隊形やグループを編成する。 礼は、相手を尊重しつつ自分を高めるための作法であることを理解させる。 伝統的行動様式や礼儀を尊重し学習を進める意義を理解させる。 柔道の動きに関連した準備運動、補強運動を行う。 	○	○	ア① エ① ア②
3 4 5 6 7 8	<p>基本動作や対人技能を洗練させ、相手の動きに素早く対応して練習や試合ができる。</p> <p>1年次既習の抑え技の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> 袈裟固め・横四方固め 上四方固め・縦四方固め <p>抑え技の応用</p> <ul style="list-style-type: none"> 崩れ系の抑え技 審判法 <p>1年次既習の投げ技の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> 出足払い・支え釣り込み足・膝車 送り足払い・小内刈り・大内刈り 小外刈り・大外刈り・体落とし 背負い投げ・大腰・払い腰 <p>新しい投げ技の練習</p> <ul style="list-style-type: none"> 一本背負い投げ・釣り込み腰・内股 <p>得意技の選択に向けた総合練習</p> <ul style="list-style-type: none"> かかり練習・約束練習・自由練習 	<p>毎時W-upを兼ねて抑え技の簡易試合を行い、勝敗を競うことへの関心を高めたり勝敗に対する公正な態度を育てるとともに、崩れ系の固め技について理解を促し、技能を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 投げ技ごとに崩しや体さばき、受け身との関連を明確にしながら指導する。 相手を崩したときに、自分の体勢が安定していることを意識させる。 投げ技と関連させながら、繰り返し受け身の練習を行い、技能を洗練させ、確実な安全確保を図る。 正しい受け身を取ることを意識させる。 自己の能力や技の特性から、自分の得意な技を見つけさせる。 無理なかけ方をしないことや素直に受け身を取ることを徹底させ、安全確保に十分注意させる。 <p>既習の技を、手技、腰技、足技に分け、選択した得意技から学習グループを再編する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 足技は、「私う」「刈る」「支える」にグループを細分する。 2つの技を選択させ、グループの編成は2回行う。 得意技に関連する連絡変化について研究したり、練習形態を選択したりなど、グループごとに計画を立て練習させる。 得意技に結びつけていくために相手の反応にあわせて連絡変化していくことを理解させる。 禁じ技についても併せて指導し理解させる。 毎時、各グループに、自分たちで考えた連絡変化や、効果的な連絡変化について発表させる。 判定基準を確認させる。 「一本」にするためには崩しや体さばきに素早さが必要なことに関心させる。 	○	○	ア② ウ② エ③ ア③ ウ① ア① イ① イ②、③ ウ② エ②、③
9 10 11 ⑩ (本時)	<p>得意技を身につけ、得意技をいかした攻防の仕方を考え、練習や試合ができる。</p> <p>得意技の選択</p> <p>得意技の洗練に向けた練習</p> <ul style="list-style-type: none"> 得意技への連絡変化の研究 かかり練習・約束練習・自由練習 <p>審判法</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡易試合 	<p>役割を分担し、協力しあいながら試合進行できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 規則や禁止事項を確認し、正観に近いルールで安全に試合ができるようにする。 階級別にリーグ戦を行う。 技を決めるための要素について考えさせる。 学習ノートをを用い、課題の達成度を自己または相互に指摘しあわせ、次年度の学習に意欲付けをする。 	○	○	ア②、③ イ③ ウ② エ③
16 17 18	<p>試合の中で学習した成果を発揮することができる。また、ルールや審判法を理解し、役割に応じ協力し合いながら試合の運営ができる。</p> <p>試合の計画、運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 階級別個人戦 まとめ 				

10 本時の指導（本時：18時間中の12時間目）

(1) 本時の内容「得意技への連絡変化」

(2) 本時の目標

- ・崩しや体さばきなどスムーズな動きで技をかけることができる。また、技に応じた受け身が正しく取れる。
- ・自分のかけやすい技、技の系統性や構造などから、得意技への連絡変化する技や仕方を考える。

(3) 見学者への対応

グループ学習の一員として、得意技の技能の構造の理解、連絡変化する技と技との関連の理解について学習を進めるとともに、他のメンバーの技能習得へのアドバイスをさせる。

(4) 準備物

学習ノート、連絡変化参考プリント、技の分類表、ストップウォッチ

(5) 学習指導の展開

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入	12	1 集合・整列・挨拶	・柔道授業用の隊形に整列、正座し、座礼する。	・礼法や姿勢について確認する。
		2 出欠確認 健康観察	・出欠席および見学について確認する。	・一人ずつ呼名し、しっかり返事をさせる。全員の確認が終わるまで、正座を崩さない。
		3 本時の説明	・本時の目標、内容について理解する。	・学習の補助や見学のポイントなど、見学者の学習についても具体的に説明する。
		4 準備運動・補強運動 ・体さばきステップ ・バランス崩し ・腕相撲・倒立	・教師の指示のもと、準備運動や受け身、補強運動などを行う。	・主運動に繋がるよう、それぞれの運動のねらいを明確にする。 ・倒立は、年間を通じ、補強運動として取り入れている。
		5 抑え技の簡易試合と審判法の練習	・グループを作り抑え技のみの試合と審判を交代で行う。 ①背中合わせ長座から(1分×2回) ②片膝立ち組み手から(1分×2回)	・「抑え込み」の宣告を、自信を持って行わせる。 ・よい例を選び、抑え込みが成立する条件やルールを説明したり、攻め方や防ぎ方などについてポイントをアドバイスする。
展開	8 5	6 受け身の練習 ・後ろ受け身 ・横受け身 ・前回り受け身	・二人1組で、受け身の練習を主目的とする投げ技の練習を行う。 ①かかり練習 5回×3セット	・既習の技の中から、受け身の種類毎に技を選択し、受け取り交代しながら行わせる。 ☆投げ技はスムーズか、また、受け身は正しくとれているか。[技] (行動観察)
		7 得意技の選択	・2つ目の得意技を選択し、学習グループを再編成する。	・手技、腰技、足技(「払う」「刈る」「支える」)に分け、選択した得意技から学習グループを再編成する。 ・グループ編成はできるだけ3または5人組とし、練習を行うペアと観察して教える役割とを交代し、互いに教え合いながら学習させる。
		8 連絡変化の研究 連絡変化の練習 ・かかり練習 ・約束練習	・得意技により編成したグループ毎に、連絡変化について考える。 ①自分のかけやすい技から考える ②技の系統性や構造から考える ・練習方法を選択しながら、考えた連絡変化の練習をする。	・見学者も、グループの一員とし、練習の補助や助言をするなど、一緒に活動させる。
閉	20	9 発表	・グループ毎に研究した連絡変化について発表する。	・連絡変化することで技がかかりやすいことを理解させる。 ・各グループの研究内容を発表させることで選択した技以外の連絡変化についても理解を図る。 ・必要に応じ解説を加え、理解を深める。 ☆得意技へ連絡変化する技を選んだり、連絡変化の仕方を考えたりしているか。 [思・判] (行動観察・発表内容)
		10 整列・整理運動	・教師の指示のもと、整理運動を行う。	・使った部位を意識させ、ストレッチを中心に十分にほぐし、疲労の回復に努める。
まとめ	5	11 まとめ ・本時の反省 ・次時の課題	・本時の学習を振り返り、次時の課題を把握する。	・けがの有無、体調の変化に十分気を配る。 ・学習ノートに簡潔に記入させる。
		12 挨拶・解散	・正座し、座礼する。	・礼法や姿勢について確認する。

(6) 授業の視点

- ・選択した得意技によるグループ編成と、そのグループを中心とした学習形態について
- ・グループ学習を進めている際の、各グループへの指導方法について

芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案（例）

日	時	平成〇〇年〇月〇日（ ）第〇時限
学年・組		〇〇科1年〇組（男子〇名、女子〇名）
使用教科書		教科書名 出版社名
指導者		教諭 〇〇 〇〇

1 題材名 合唱の楽しみ

2 題材設定の理由

(1) 題材観

合唱活動は、生徒が協力して歌い合わせる喜びを体験することで、音楽の魅力や仲間と表現することのすばらしさを感じ取ることができる活動である。

本題材は、新学習指導要領の内容 A 表現(1)の「ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うこと。」、「イ 曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。」、「エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じ取り、それらを生かして歌うこと。」と関わっている。

本題材では、歌詞の理解、美しく表現するための発声、発音など基礎的な技能を身に付けさせたい。また、互いの音をよく聴き合わせ、音色に統一感をもたせることで生まれる和声の響きの美しさを感じ取らせたい。さらに、協力して音楽を作り上げる喜びを味わわせたい。このような力を身に付けさせたいと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態 (略)

3 題材の目標

- (1) 美しい響きで合唱するための諸条件を考えるとともに、意欲的に表現活動を通して、合唱による表現の喜びを味わおうとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫することができる。(芸術的な感受や表現の工夫)
- (3) 歌詞の内容や曲想、曲にふさわしい発声や言葉の表現、声部の役割と全体の響きなどに気を付けて合唱する技能を身に付けることができる。(創造的な表現の工夫)

4 教材名 合唱曲〈生徒の実態に応じて選曲し、二部～四部合唱曲を扱う。〉

「火の山の子守歌」作詞 谷川 雁 作曲 新美 徳英

「春に」 作詞 谷川俊太郎 作曲 木下 牧子

「大地讃頌」(カンタータ「土の歌」から)作詞 大木 惇夫 作曲 佐藤 眞

5 題材の評価規準

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
美しい響きで合唱するための諸条件を考えるとともに、意欲的に表現活動を通して、合唱による表現の喜びを味わおうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫している。	歌詞の内容や曲想、曲にふさわしい発声や言葉の表現、声部の役割と全体の響きなどに気を付けて合唱する技能を身に付けている。

6 題材の指導計画及び評価計画（総時数6時間：本時5／6）

時	主な学習活動	学習活動における具体的評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 声の出る仕組みを学び、基礎的な発声練習方法を学習する。 ○ 合唱曲の鑑賞を通して、楽曲の構成や歌詞の内容を理解するとともに、曲想の変化やそれらを生み出す諸要素の働きを感じ取り、美しい響きの合唱にしていこうための計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発声の仕方に関心をもち、進んで練習をしたり、楽曲の構成、歌詞の内容、曲想の変化や美しい響き等に関心をもって鑑賞したりしている。 (関心・意欲・態度)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音程、リズム、フレーズ等を把握し、パート練習及び部分的な合唱の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽譜を見て、音程、リズム、フレーズ等を把握し、表現する技能を身に付けている。(創造的な表現の技能) ○ 声部の役割を意識し、協力し合って主体的に合唱活動をしている。 (関心・意欲・態度)
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽譜に記されている曲想表現を心がけて、パート練習及び合唱練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽曲の曲想を生かし、速度の変化や強弱の変化を付けて表現する技能を身に付けている。 (創造的な表現の技能)
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞の内容を感じ取り、言葉のリズム、アクセント等に気を付けて、パート練習及び合唱練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉のリズム、アクセント、イントネーション等と音楽との結びつきを感じ取って、表現を工夫している。 (芸術的な感受や表現の工夫) ○ 言葉のもつ語感を把握し、それにふさわしい子音・母音や濁音・鼻濁音で表現する技能を身に付けている。 (創造的な表現の技能)
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲想豊かに仕上げるために話し合い、グループ合唱をする。 ○ グループ合唱を発表し合い、互いのよさや課題について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ さらによい合唱にするために話し合い、楽曲の歌詞や曲想を生かして表現の工夫をしている。 (芸術的な感受や表現の工夫)
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループの工夫点やよさを整理し、全体合唱で目指す表現を確認して合唱する。 ○ 一体感のある音色、全体的な調和を感じ取って合唱する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽曲の曲想を生かし、一体感のある音色、全体的な調和を感じ取り表現する技能を身に付けている。 (創造的な表現の技能)

7 本時の指導

(1) 題目 グループで表現を工夫し、曲を練り上げよう

(2) 本時の目標

○ 楽曲の歌詞や曲想を生かした表現を工夫することができる。

(3) 本時の展開

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点、評価(☆)	資料等
導入	7	○発声練習	1 発声練習をする。	○ 日常的な発声練習に加え、使用教材と同じ調性で、カデンツァを練習する。 ☆ 響きのある声を目指して、進んで練習をしているか。	・カデンツァの拡大楽譜
	3	○学習内容の確認	2 本時の学習課題を知る。	○ 本時はグループで曲想表現を工夫し発表し合うことを伝える。 ○ 楽曲の一部分を指定して、表現を工夫させるようにする。	
	5	○目標の設定	3 前時の演奏の録音を聴き、グループで課題を話し合い、本時の学習目標をもつ。 【目標の例】 ・言葉のニュアンスに合う声で歌おう。 ・弱音をきれいにだして、強弱を付けよう。	○ 表現の工夫に関する課題を明らかにし、各自が学習のねらいを明確にもてるよう支援する。 ☆ 「歌詞や曲想を生かした表現」という観点から、前時の課題を的確に把握できているか。 ○ 話し合いが滞っているグループには、教師が具体的に質問をして考えさせる。 ○ 多くの課題を挙げたグループについては、ねらいを絞るよう助言する。	
展開	20	○声部の役割と表現の工夫	4 工夫する点を話し合いながら、グループ練習をする。	○ 工夫点を拡大楽譜に書き込みながら練習を進めるよう伝える。 ○ より豊かな曲想表現のために個に応じた指導やグループへの助言をする。 ○ 声部の役割を確認するよう助言する。 ○ 工夫したい点を部分練習させ、表現の工夫ができたグループには、その前後を通したときの流れやバランスに気を付けるよう助言する。	・拡大楽譜 ・キーボード
	10	○グループ発表におけるよさの発見	5 グループ合唱を発表し、聴き手は表現のよさや課題を演奏者に伝える。	○ グループのねらいと工夫点を説明してから、発表させる。 ○ 課題が解決できていたか、工夫点が十分表現に生かされていたかを聴くよう促す。	・VTR
まとめ	5	○本時まとめ	6 本時の活動を振り返り学習カードに記入する。	【☆評価】 楽曲の歌詞や曲想を生かして表現を工夫しているかを、学習活動4、5で、観察・VTR・学習カードにより評価する。 (芸術的な感受や表現の工夫) [概ね満足できると判断される状況] ・グループで課題としてとらえた部分について、強弱、言葉の生かし方などを工夫して表現している。 [十分満足できると判断される状況] ・旋律の美しさやフレーズのまとまりを生かしながら、言葉の生かし方などよりよい表現を追求している。 [努力を要する生徒への手立て] ・言葉のリズム、アクセント、強弱など、関心が高まるような視点を、楽譜を使って具体的に与える。 ・比較表現を聴かせて、よりよい表現に気付かせる。	・学習カード
				○数名に感想を発表させるとともに、本時の活動を十分に賞賛する。 ○次時は、グループで工夫した点を整理して、共通理解を図った上で、全体合唱を仕上げていくことを予告する。	

英語科学習指導案(例)

県立〇〇〇高等学校 指導者：〇〇 〇〇

指導日時 平成〇〇年〇月〇日(〇)〇時限
 対象生徒 〇〇科1年2組(40人)
 科目名 オーラル・コミュニケーションⅠ
 使用教科書 〇〇〇〇-Oral Communication Ⅰ(〇〇出版)

1 単元名 Lesson 〇 “Health Problems”

2 単元のねらい

体の各部位を表す英語や、体調について伝える表現及びその使用場面を理解させる。また、会話練習を通して相手の体調を尋ねたり自分の体調を伝えたりする表現を定着させる。

- (1) 活動、発表に意欲的に参加し、自分の言葉でコミュニケーションを図ろうとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 場面に応じたオリジナルの会話文を作成し、正しい英語で適切に発表できる。(表現の能力)
- (3) モデル・ダイアログや友人の体の具合を正しく聞き取ることができる。(理解の能力)
- (4) 体の部位や症状、相手の体の具合を尋ねたり、自分の体調を伝えたりする表現を知っている。(知識・理解)

3 指導にあたって

(1) 指導観

授業では生徒からの自由な発話を奨励している。教師の発問に対して、意欲的に答えてくれた生徒にはその場で「ポイントカード」を渡して授業後に回収し、授業への動機付けになるよう工夫している。また、Input量をなるべく多くするために、リスニングの機会を多く設けるようにし、理解の能力育成に努めている。コミュニケーションへの関心・意欲・態度の育成を目指し、発表する機会を各単元に1回は設定したり、ペアワーク、グループワークを通して相互に練習する機会を事前に設けたりして、活動の場面をできる限り多く設定している。小テストをできる限り頻繁に行い、言語や文化についての知識・理解の定着を図っている。単元の最後には、自己評価を通して客観的に自分自身を見つめさせ、評価規準に掲げた目標にどれぐらい到達したか、どれくらい成長したかを生徒に気づかせ達成感・成就感を持たせたい。また、相互評価も発表時に実施することにより、生徒間の相互理解・信頼関係を培い、自分の言葉による自己表現活動をより活発にさせ、表現の能力を向上させたい。

(2) 生徒観

大学、専門学校等に進学を希望する者が60%、残り40%は就職を希望している。英語に対する興味関心は高いが、英語の基礎力が不十分な生徒が多い。表現活動、ペア・グループ活動に対して積極的に取り組む生徒が最近になって現れてきた。活動の核になる生徒も数名いる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
A1 JTEの質問に工夫を凝らし答えようとしている。 A2 話し手や聞き手として工夫をし、コミュニケーションを続けようとしている。	B1 場面や応じた、ふさわしい表現を選んで伝えたい事を正しく作成できる。 B2 医師と患者の会話を適切な英語で発表できる。	C1 モデルの対話を正しく聞き取ることができる。 C2 相手の話の内容を正しく聞き取ることができる。	D1 体の部位を英語で表現できる。 D2 相手の体調を尋ねたり、自分の体調を伝えたりする表現を知っている。

5 単元の指導計画(総時数3時間)

時間	該当箇所	指導内容・方法	評価規準との関わり
1	Comprehension Listening practice	話題の導入、体の部位を表す語彙の発音練習、モデル・ダイアログのリスニング練習	A1, C1
2	Speaking practice	語彙の復習、モデル・ダイアログのリスニング後音読練習、症状の紹介、相手の具合を尋ね、自分の体調を伝える表現の定着、小テスト	C1, D1, D2
3	Communication practice	語彙(体の部位、症状)及び表現の復習、自分なりの表現作成、ペアによる会話練習、発表、小テスト、相互評価・自己評価シート記入	A2, B1, B2, C2

6 本時のねらい(総時数3時間中3時)

- (1) 医師と患者間のやりとりの台本を作成し、ペア活動、発表することを通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(A2)
- (2) 体の部位や症状、具合を尋ねたり、体調を伝えたりする内容を表現できる力を養う。(B1, B2)
- (3) 友人の発表を聞いて会話の内容を理解する力を養う。(C2)

7 本時の展開 (Teaching Procedure)

学習活動 (分) (Procedure)	生徒の活動 (Students' Activities)	教師の支援 (Teachers' Activities)	留意・観察点 (Teaching & Evaluating Points)
Warm-up (1)	・Greet.	・Greets.	
Review 1 <i>BODY PARTS</i> (3 min.)	<ul style="list-style-type: none"> ・Stand up. ・Listen to JTE and touch the body parts JTE says. ・Sit down. ・ Watch JTE and answer the names of the parts in English. ・Repeat after JTE. 	<ul style="list-style-type: none"> ・Has the students stand up. ・Pronounces the words of the body parts and has the students touch them. ・Has the students sit down. Touches the parts of the body and has the students answer in English. ・Has the students repeat after JTE each time. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Has the students answer quickly and loudly. ・Gives the students some clues, if they have difficulty. ・ Asks questions and watches whether they could touch and answer quickly and smoothly.
<p>REVIEW MATERIALS</p> <p>an eye/a nose/a mouth/a shoulder/an arm/a hand/a chest/a back/a knee/a leg/a foot/a throat/a side/a tooth/an ankle</p>			
Review 2 <i>KEY PHRASES</i> (8 min.)	<ul style="list-style-type: none"> ・Listen to JTE and answer the question. ・ Look at the pictures on the board and answer the questions in English, or listen to the classmates answering them. ・Repeat after JTE. 	<ul style="list-style-type: none"> ・Asks the students what to say when asking health conditions, and puts the phrase on the board. ・ Shows the pictures showing symptoms and asks the students how to express them in English. ・Checks the answers each time by showing the phrases behind the pictures and has the students repeat the phrases after JTE. ・Puts the pictures on the board. 	<ul style="list-style-type: none"> ・Has many students answer the questions. ・Has the students look at their worksheet of this lesson, if they don't remember. ・ Asks questions whether they could answer the phrases smoothly, and then gives "Point Card" to volunteers.
<p>REVIEW PHRASES</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What's the matter with you?/What are your symptoms? ・I have [a headache/a sore throat/a fever/a runny nose/a cough/a stomachache/a pain in my leg/a dull(sharp, piercing) pain/an upset stomach/little appetite etc] ・I feel [chilly/dizzy/fuzzy/tired/sleepy/better]. ・That' too bad. / You need a good sleep./Please take good care. 			
Explanation of the Activity (8 min.)	<ul style="list-style-type: none"> ・Look at and listen to JTE, and ask questions if they have. 	<ul style="list-style-type: none"> ・Puts on a white coat and a stethoscope, and tells the following background story to the students mostly in English. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Often checks whether the students understand the activity. ・Rephrases in easier English, if the students have difficulty understanding. ・ Reminds the students of the following things, especially.
<p>BACKGROUND STORY</p> <p>A student is traveling around Korea. On her or his way, she or he became sick or broke her or his leg, so she or he went to a hospital. The doctor at the hospital can speak only Korean and English. And the student can speak only Japanese and English</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ Look at the worksheet of Speaking Practice. ・Listen to JTE and ask, if they have any questions. 	<ul style="list-style-type: none"> ・Has the students look at the worksheet of Speaking Practice. ・Explains the procedure of the activity and evaluating points of presentation in English and in 	<ul style="list-style-type: none"> 1) Each pair has to make two conversations, that is, at 1st time one asks and at 2nd time the other asks. 2) The students have to demonstrate before the class after pair practice.

	<ul style="list-style-type: none"> · Look at the board. 	Japanese.	<ul style="list-style-type: none"> 3) To try to use as much English as possible. 4) The students have to evaluate their friends' demonstrations on their worksheet.
	<p>PROCEDURE OF THE ACTIVITY</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 The students are divided into pairs. 2 Each pair makes 2 conversations. 3 Each pair practices the conversations. 4 Some pairs demonstrate before the class 5 Some students answer the questions presented by JTE. 	<ul style="list-style-type: none"> · Puts the evaluating points on the board. 	
	<p>PROCEDURE OF THE DIALOGUE</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 One person (Doctor(D)) asks "What's wrong with you?" 2 The other (Patient(P)) answers 3 symptoms at least. 3 D diagnoses P's disease or makes comments to P. 		
	<ul style="list-style-type: none"> · Make pairs and start the activity in pairs. 	<ul style="list-style-type: none"> · Has the students make pairs and announces that they have 15 minutes. 	<ul style="list-style-type: none"> · If a student can't make pair, has the student join one of the pairs.
Pair Practice (15 min.)	<ul style="list-style-type: none"> · Prepare and practice the conversation in pairs. · Ask JTE if they have any questions or problems. 	<ul style="list-style-type: none"> · Checks whether the students understand and do the activity. · Encourages the students to use as much English as possible. · Helps students in trouble. · Finds some pairs who are doing well for the demonstration. 	<ul style="list-style-type: none"> · Encourages students who have difficulty in the activity. · Watches whether each pair is trying to make 2 conversations correctly. (B1) · Watches whether each pair is trying to practice the conversation eagerly. (A2)(B2)
Demonstration of the Practice (10 min.)	<p><u>Demonstrating students</u></p> <ul style="list-style-type: none"> · Doctor-students put on the white coat and the stethoscope. · Demonstrate in front of the class being reminded of 3 evaluating points. <p><u>Listening students</u></p> <ul style="list-style-type: none"> · Listen to friends' demonstrations eagerly · Answer the questions given by JTE. · Evaluate the demonstration on their sheet. 	<ul style="list-style-type: none"> · Recruits some volunteers and if none of the students do voluntarily, calls out some pairs. · Listens to the students demonstrating, and checks whether the other students are listening eagerly. · Asks some questions about the conversations and has some students answer. · Has the students evaluate their friends' demonstrations each time. 	<ul style="list-style-type: none"> · Watches whether the students listen to their friends' conversation eagerly and whether the students demonstrate eagerly. (A2) · Watches whether the students demonstrate loudly with appropriate pronunciation. (B2) · Asks the listening students some questions and gives "point card" to volunteers.(C2)
Consolidation (5 min.)	<ul style="list-style-type: none"> · Get the answer sheet. · Answer the questions on the answer sheet and hands in. · Hand in the self-evaluation sheets of Speaking Practice. · Greet. 	<ul style="list-style-type: none"> · Passes out answer sheets to the students. · Collects the answer sheets. · Collects the self-evaluation sheets of Speaking Practice. · Greets. 	<ul style="list-style-type: none"> · Quizzes by worksheets whether the students understand the symptoms through reading

家庭科学学習指導案（例）

○年○月○日（○） 第○時限
普通科 ○年○組（○）名
指導者 ○ ○ ○ ○

- 1 単元名 乳幼児の発達と保育・福祉 家庭基礎（○○出版）
- 2 単元の目標 乳幼児の心身の発達と保育、子どもの福祉などについて理解させるとともに、乳幼児の保育における親の役割の重要性について理解させ、子どもを生み育てることの意義を考えさせる。また、子どもの健全な発達のために、親をはじめ家族及び社会の果たす役割が重要性であることを認識させ、保育への関心をもたせる。
- 3 単元設定の理由 核家族化や少子化が進む中、子どもと触れ合ったり、身近にかかわりをもつというような体験に乏しい生徒が増えている。ここでは、乳幼児の保育について、できるだけ実感を伴って学習させるために、教材を工夫したり、疑似体験や読み聞かせの実習を取り入れることにより、乳幼児に対するイメージを広げ、興味・関心を高められるようにした。また事例研究や話し合い、課題ごとの調査・研究を通して、子育てを自分たちの課題として認識し、子どもと適切にかかわろうとする意識が育てられるようにした。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>A 1 乳幼児の心身の発達の特徴に関心を持ち、発達段階や個性に応じて、親や家族が子どもとどのようにかかわったらいかなど、保育の在り方について具体的に考えようとしている。</p> <p>A 2 子どもの健やかな発達を支える地域・社会の福祉サービスはどうあったらよいか考えようとしている。</p>	<p>B 1 子育ての意義について考え、子育てを通して得られるものについて考えを深めている。</p> <p>B 2 現代の子どもが育つ環境の変化などについて課題を見つけ、それらの原因及び解決について考え、社会全体で支援する事の必要性について思考を深めている。</p>	<p>C 1 事例研究や実践的な学習を通して、乳幼児との触れ合いや交流を深めることができる。</p>	<p>D 1 乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び福祉について具体的に理解している。</p>

5 単元の授業計画及び評価計画

時	主な指導内容	主な学習活動	評価規準との関連	評価（評価方法）
第1・2時	○「子育て」とは	○KJ法を用い、「子育て」から連想する言葉をグループごとにまとめる。	A 1 B 1 D 1	○子育てに関心を持ち、KJ法による作業や妊婦疑似体験に意欲的に取り組もうとしている。
	○「子どもを生み育てること」の意義	○妊婦疑似体験を通して、妊娠に伴う体の変化と、親の責任を考えまとめる。		
第3・4・5時	○乳幼児の心身の発達	○コラムや子育て中の人へのインタビューをもとに、子育ての苦労や楽しさについて考え、各自、ワークシートにまとめる。また、「子どもを生み育てることの意義」についてミニ討論会をする。	D 1 D 1 D 1	○子育ては楽しさもあるが、親としての責任も伴うものであること理解している。 (グループ活動の態度、実習の態度、ワークシートの記述内容)
	○生活習慣の形成	○保育人形で、新生児の体重・身長を計測し、身体の特徴を理解する。		
第6・7・8時	○子どもの遊びと発達	○ビデオを視聴して乳幼児の心身の発達の特徴を知る。	D 1 B 2	○発達段階や個性に応じた適切な保育の重要性に気付く。
	○絵本の読み聞かせ	○「保育園児の生活」のVTRを視聴し、子どもの遊びの特徴と意義をまとめる。		
第9・10・11時	○親の役割と愛着	○現代社会の子どもを取りまく環境について知り、子どもの遊びをめぐる問題点についてグループごとに話し合い発表する。	A 1 D 1 D 1 D 1 C 1 A 2 B 2	○子どもの遊びの意義と特徴について理解している。
	○児童福祉の理念	○幼児に絵本の読み聞かせをすることを想定し、次のポイントについて考える。 (絵本の選び方・読み方の工夫・子どもとのかかわり方)		
	○少子社会における子育て支援	○幼児への絵本の読み聞かせを役割をとってシミュレーションする。	A 1 D 1 D 1 C 1 A 2 B 2	○子どもの遊びをめぐる問題点について主体的に考察している。
		○新聞記事や聞き取り調査等をもとに、子育てにおいて親や家族は子どもにどのようにかかわったらいかなど考える。		
		○児童福祉に関する具体的な法律や制度について調べる。		○絵本の読み聞かせの意義を踏まえて、具体的な読み聞かせの工夫のポイントを意欲的に考えている。
		○少子社会における子育てに対する親の不安や悩みを知り、身近な地域における子育て支援策（種類と活用法）について調べ発表する。		○工場のポイントを生かし、子どもと適切にかかわろうとする意欲をもって読み聞かせのシミュレーションをしている。 (実習態度、ワークシートの記述内容、自己評価)
		○自分が将来子育てをする立場になることを想定し、子どもの健やかな健康のためにはどのような支援が必要か考え、ワークシートにまとめる。		○事例をもとに、乳幼児の保育における親の役割について考えている。
				○乳幼児期の「愛着」の形成が後の人間関係の基礎となり、子どもの発達段階を理解した親の働きかけが重要であるとともに、子育てを通して親自身も成長することを理解している。
				○「児童憲章」「児童福祉法」「児童の権利に関する条約」等から児童福祉の理念を理解している。
				○集団保育の意義と役割を理解している。
				○地域における子育て支援策についてまとめ発表することができる。
				○これまでの学習を生かし、現在の子育て環境を踏まえ必要な支援策について考えることができる。 (発表態度、ワークシートの記述内容、自己評価)

6 本時の題目 子どもの遊びと発達 (第6時)

- 7 本時の目標
- ・ 保育所実習のVTRを視聴し、人間形成の基礎作りに遊びが大きく関わっていることに気付くとともに、子どもの遊びの意義と特徴について理解する。
 - ・ 現代社会の子どもを取りまく環境について知り、子どもの遊びをめぐる問題点について考える。
 - ・ 子どもの生活と遊びに関心を持ち、子どもと適切にかかわろうとする態度を養う。

8 授業展開

区分	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点	資料	評価等
導 入 5分	前時の確認 本時の学習内容の確認	○本時の学習課題を確認する。	○遊びが子どもの発達に果たす役割について学習することを知る。		
展 開 40分	子どもの遊びの意義と特徴 現代社会の子どもの遊びに関する問題点	○「保育園児の生活」のVTRを視聴し、ワークシートに、次の点についてまとめる。 ・ 子どもの遊び方の特徴 ・ 子どもは遊びから何を得ているか ○現代社会の子どもを取りまく環境について知る。 ○現代社会の子どもの遊びに関する問題点について、グループごとに話し合い ○HPシートにまとめ、発表する。 ・ 問題点 ・ それに対する自分たちの考え ○整理された問題点に対する自分の考えをまとめる。	○遊びの種類と形態は心身の発達に伴って変化していくことに気付かせる。 ・ 1人遊びから集団遊びへ ・ 受容遊びから構成遊びへ ○人間形成の基礎作りに、遊びが大きく関わっていることを知らせる。 ○子どもの健全な発達にストップをかける要因がいかに多いか知らせる。 ・ 都市化による自然破壊 ・ 早期教育の過熱化 ・ 少子化 ・ 家族形態の変化 ・ コンピュータゲームの流行 ○話し合いが円滑に進むように援助する。 ○各グループからだされた問題点を整理しポイントごとにまとめる。 ・ 遊び方(種類)の変化 ・ 遊び仲間の減少 ・ 遊び時間の制約 ・ 遊び空間の減少	・ VTR ・ ワークシート ・ 新聞記事 ・ 写真 ・ 統計資料 ・ OHPシート ・ ワークシート	○子どもの遊びの意義と特徴について理解している。 【知識・理解】 ← ワークシート記入状況 ○子どもを取り巻く環境をもとに、現代社会における遊びに関する問題点を考えようとしている。 【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 ← 話し合いへの参加状況 ← ワークシート記入状況
ま と め 5分	本時のまとめ 次時の学習内容の確認	○豊かな感性を育てるための遊びの意義を確認する。 ○次時の学習課題を確認する。	○子どもにとって、遊びの中で、五感をすべて活用して自然とおおいに触れ合ったり、他と温かいコミュニケーションをもつことが重要であることを知らせる。 ○プリントの提出を伝える。	・ 自己評価	← 自己評価

農業科（科目：農業科学基礎）学習指導案（例）

日時	平成〇〇年〇〇月〇〇日（ ）曜	第3・4時限目	指導者	教諭 〇〇 〇〇
学科	農業科	学年・組	1年 〇組	教科書
				〇 〇 出版

1 単元

II 栽培と飼育のプロジェクト

2 種まきと育苗

2 単元の指導観

教材観	種まきから収穫までに関わる栽培の基礎的な知識・技能を理解させるとともに、作物栽培や農業学習に対する興味関心を醸成し、自らの考えや判断に基づいて工夫しながらこれからの学習に取り組もうとする態度を育むことができる教材として、イネを取り上げた。イネは日本の基幹作物であり、栽培理論や方法が確立されており、作物の生育の仕組みと栽培技術について科学的根拠をもとに理解させるために適した素材である。 この単元では、イネの種子を用い、種子の形態と機能、発芽について理解させ、種まきから育苗までを実習で体験させる。また、実験・観察では生徒に課題を与え考察させる活動を多く取り入れている。
学習者観	農業に対する漠然とした興味関心や農業学習に対する期待は高いが、栽培の経験がない生徒がほとんどで、農業学習の意欲や態度を身に付けるために、非常に大切な時期である。 実験・観察等を主体的に体験してきた生徒が少なく、実験・実習などの場面で、作業を伴ったり考察をしたりする内容に慣れていない。そのため、これらの学習の意義と学習の方法に関する指導が必要である。
指導方針等	農業学習の導入にあたる時期であるため、学習の意義や学習の方法に関する指導を十分に行う。実験・観察では十分に考える時間を確保し、一人一人が考えをまとめて発表できるように配慮する。 また、「作物の性質」「栽培管理の仕組み」「作物を取り巻く環境条件」は相互に関連して栽培の基礎的な知識・技能が成立している。このことを踏まえ、これらが有機的に関連した理解が得られるように意識して指導する。

3 単元の指導目標

- イネの種まきから育苗までの学習を通して、種まきから育苗までの作物の形態と機能、栽培管理の仕組みの基礎的な事項を理解させるとともに、この時期の作物の状態や作物を取り巻く環境条件から、適切な判断で管理作業を行う基礎的な技術を身に付けさせる。
- 作物の栽培や農業学習に関心を持ち、育成の仕組みや栽培技術について科学的に捉えようとし、意欲的に学習に取り組もうとする態度を身に付けさせる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・種子の形態や発芽の様子、発芽と環境の関係に関心を持ち、調査・観察に意欲的に取り組むとともに、発芽や生育について科学的に捉えようとしている。 ・科学的な根拠に基づき、種まきの実習に意欲的かつ高精度に取り組もうとする態度が身に付いている。 ・育苗管理の当番業務に責任を持って取り組もうとする態度が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の種類と種まきをする環境に応じて、適切な用土の準備、種まき法を判断する能力が身に付いている。 ・発芽の実験では、実験の目的を考えて、適切に実験装置を準備し、種子発芽状態を適切に観察・診断する能力を身に付けている。 ・苗の生育状態を判断し、適切な管理を実施する能力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・種まきに適した用土の準備についての基礎的な技能を身に付けている。 ・種子の前処理の基礎的な技能を身に付けている。 ・種まきと覆土、灌水の基礎的な技能を身に付けている。 ・育苗管理の基礎的な技能を身に付けている。 ・種まきの方法や留意点について正確に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・種子の構造について知り、その機能を理解している。 ・「良い種子の条件」「発芽の三要素と発芽と環境条件の関係」について理解している。 ・種まきの方法について知り、それぞれの方法の特徴と用途を理解している。 ・良い苗の特性を知り、適した育苗環境と管理作業の仕組みを理解している。

5 単元の指導計画

学習項目	学習のねらい	時数 (15分)	学習内容	評価対象・方法と観点
1 選 種 (1) 良い種子の条件 (2) 選種と発芽試験 (3) 発芽の条件	○良い種子の条件、発芽の条件を理解し、選種に関連した技術を身に付ける。	1 ② ③ 4	○種子の形態観察や比重選の実験、発芽試験を通して良い種子の条件や選種の方法を理解し、選種の技能を身に付ける。 ○実験結果から発芽に適した環境条件を考察させ、「発芽の条件」について理解する。	・授業時の観察【◎・△】 ・実験観察レポート【◎・〇・△】
2 前処理とたねまき (1) 前処理 (2) たねまき	○種もみの発芽の仕組みや発芽に適した環境条件について理解し、前処理に関連した技術を身に付ける。	5 6 7 8	○前処理の目的と方法を理解し、前処理の技能を身に付ける。 ○発芽の仕組みの理解に基づき、さまざまなたねまきの方法と用途について理解する。	・授業時の観察【◎・△】 ・実験観察レポート【◎・〇・△】
3 苗の育て方 (1) 苗の形態と良い苗の性質 (2) 育苗期の管理	○苗の形態、良い苗の特性について理解し、育苗期の管理に関連した技術を身に付ける。	9 10	○苗の形態を観察し、良い苗の特性を考察して、育苗期の管理の要点を理解する。 ○灌水や追肥、温度管理などの基本的な育苗の技能を身に付ける。	・授業時の観察【◎・△】 ・実験観察レポート【◎・〇・△】 ・当番日誌【◎・〇】

※【評価の観点】 ◎関心・意欲態度 ○思考・判断 △技能・表現 ◇知識・理解

6 本時の指導目標

- 1 選種の手順を理解し、種もみの比重選ができる。
- 2 選種した種もみの発芽試験の意味と手順を理解し、発芽試験の準備ができる。
- 3 班ごとに協力して実験ができる。
- 4 選種を行う目的の理解に基づいて、発芽試験結果を予想することができる。

7 準備

各班・・・ピーカ、食塩、ざる（大・小）、比重計、シャーレ、ろ紙、洗浄びん、上皿天びん、かくはん棒、新聞紙、種もみ
各自・・・実験観察レポート用紙、実験手順（値付資料）

8 学習指導の展開

段階	学習内容	学習活動	時間	教師の指導及び指導上の留意点	資料	授業中の評価
導入	・前時の復習 ・本時の目標と内容	・前時の内容を想起し、本時の目標と内容を理解する。	7分	・前時とのつながりの中で本時の実験があることを理解させる。 ・実験の目的と流れを理解させる。 ・あらかじめ用意した各種の比重液に鶏卵を浮遊させ、塩水の比重と浮力の概念を理解させるとともに、実験への興味を喚起する。	・前時の配付資料 ・比重選の実験手順（配付資料）	△前時の内容を思い出し、本時の目的を理解している。（発問） ◎実験に対する興味・関心を持っている。（観察）
			15分			
展開	1 比重液の調製	・比重液（塩水）を作る方法を理解する。 ・比重液をつくる。（班別活動）	15分 15分	・班ごとに実験を行うのははじめてなので、器具の準備、使用方法を演示し、ていねいに説明する。また、班内の分担の指示をする。 ・比重液は各班2リットル準備させる。 ・机間指導を行い、内容の未理解者や消極的な取組の生徒を指導する。	・比重選の実験手順（配付資料）	△比重液の作り方を理解している。（発問） ◎比重液の調整に意欲的に取り組んでいる。（観察） ◇手順にしたがって比重液の調製をしている。（観察）
	2 比重選	・比重選を行う。	13分	・種もみは各班100g準備する。 ・塩水選の手順を演示し、手順を確実に理解させる。 ・実験に使用した種もみは発芽試験にも使用することを説明し、大切に扱うように指導する。 ・早く終了した班からレポートをまとめさせる。		△手順にしたがって比重選を行っている。（観察） △班内で分担して手際よく実施している。（観察）
	3 発芽試験	・発芽試験の目的を理解する。 ・発芽試験の手順と方法を理解する。 ・発芽試験の装置を準備する。（班別活動） ・使用器具の洗浄と後かたづけを行う。（班別活動） ・発芽試験の結果を予想する。（班別活動）	5分 5分 10分 10分 10分	・比重選で浮いた種もみと沈んだ種もみでは発芽率や発芽後の生育に違いがあるかに注目させる。 ・試験装置の準備を演示し、留意点を説明する。 ・机間指導を行い、未理解者や消極的な取組の生徒を指導する。 ・準備が終了した班から塩水を回収し、器具の洗浄・片付けを行うよう指示する。 ・比重選に使用した種もみは、沈んだものを新聞紙に広げ風乾することを指示する。 ・早く終了した班からレポートをまとめさせる。 ・浮いた種もみと沈んだ種もみの発芽の様子の違いとその理由を班ごとに話し合わせ、レポートにまとめさせる。	・発芽試験の手順（配付資料）	◇発芽試験の目的を理解している。（発問） ◎発芽試験に興味・関心をもっている。（観察） ◇発芽試験の手順と留意点を理解している。（発問） ◎班内で分担して手際よく実施している。（観察） ◎話し合いに積極的に参加している。（観察） ○科学的な理解に基づき、適切な考察をしている。（レポート）
まとめ	・レポートのまとめ ・次時の予告	・本時のレポートをまとめる。 ・次時は発芽試験の結果の処理と観察を行うことを理解する。 ・毎日の観察と管理について理解する。	10分	・比重選、発芽試験についてレポートをまとめ、提出させる。 ・発芽の様子を毎日観察させるとともに、ろ紙が乾燥しないように管理していくことを指示する。		◇次時の内容と毎日の観察と管理について理解している。（観察）

※【評価の観点】 ◎関心・意欲態度 ○思考・判断 △技能・表現 ◇知識・理解

工業科学習指導案（例）

平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇）第〇時限
 〇〇科 〇年〇組（〇〇名）
 科目 機械工作
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

- 1 単元名 材料の機械的性質 機械工作（〇〇出版）
- 2 単元の目標 材料の機械的性質に関する基礎的な知識と技術を習得し、各種の材料試験の原理や方法を理解する。
- 3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
A 材料の機械的性質について関心を持ち、その試験方法及び試験結果について調べようとしている。	B 材料の機械的性質について思考を深め、各種の試験結果を適切に判断できる能力を身に付けている。	C 各種の試験結果から、材料の機械的性質の特徴をつかみ、材料の具体的な使用方法について説明できる。	D 材料の機械的性質の基礎的・基本的な知識と、それぞれの試験方法及び試験結果について理解している。

4 単元の指導計画

	指導内容	学習活動	評価規準との関連	評価方法等
第1 ・ 2 時	1 強さ ・引張強さ ・応力ひずみ線図 ・圧縮強さ ・曲げ強さ	<ul style="list-style-type: none"> ・強さとは外力に耐える力であることを理解する。 ・軟鋼についての引張試験結果を分析し、鋼の特徴について理解する。 ・各種金属材料の引張試験の結果を調べ、強さを比較する。 ・圧縮強さと曲げ強さについての原理と試験方法を理解する。 	A D	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に調べようとしているか観察する。 ・強さについてノートにまとめさせることにより理解度を把握する。
第3 時	2 硬さ ・硬さと強さ ・硬さ試験	<ul style="list-style-type: none"> ・硬い材料の性質について理解する。 ・硬さと強さの関係について理解する。 ・各種材料の硬さを調べ、比較する。 ・各種硬さ試験の方法を調べる。 ・各種硬さ試験の特徴を理解する。 	A D	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に調べようとしているか観察する。 ・硬さについてノートにまとめさせることにより理解度を把握する。
第4 時 (本時)	3 粘り強さ ・衝撃荷重 ・衝撃試験	<ul style="list-style-type: none"> ・衝撃荷重について理解する。 ・衝撃荷重で破壊しやすい材料と破壊しにくい材料を考える。 ・強さ・硬さと粘り強さの関係について理解する。 ・シャルピー衝撃試験について理解する。 ・機械部品や製品のもろさに対する工夫について考察する。 	D B B・C	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強さについてノートにまとめさせることにより理解度を把握する。 ・鋼の機械的性質を判断できるか実験で確認する。 ・部品や製品の工夫について考察し、説明できるかワークシートを使用し確認する。
第5 時	4 疲労 ・繰り返し荷重 ・疲労破壊 ・疲労試験 ・S-N曲線	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し荷重について理解する。 ・疲労破壊の原理を理解する。 ・疲労試験の方法を理解する。 ・S-N曲線について理解する。 ・硬さと疲労破壊の関係について理解する。 ・疲労破壊の実例を調べ、原因を考察する。 	D B・C	<ul style="list-style-type: none"> ・疲労についてノートにまとめさせることにより理解度を把握する。 ・疲労破壊の原因を考察できているか、説明できるかワークシートを使用し確認する。
第6 時	5 温度の影響 ・低温の場合 ・高温の場合	<ul style="list-style-type: none"> ・低温では粘り強さの低下が問題になることを理解する。 ・低温における衝撃値の変化を調べる。(遷移温度) ・高温では小荷重でも変形が進むこと(クリープ現象)を理解する。 ・クリープ現象が問題になる部品はどのようなものがあるか調べる。 	A D	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に調べようとしているか観察する。 ・温度の影響についてノートにまとめさせることにより理解度を把握する。

5 本時の題目 粘り強さ (第4時)

6 本時の目標 衝撃荷重による材料の破壊について理解し、鋼の機械的性質を適切に判断できる能力を身につける。また、実際の製品や機械部品についてどのような工夫がなされているか考察する。

7 本時の展開

	配分	学習の内容	学習活動	指導上の留意点	評価
本時の指導計画	導入 5分	・前時の復習と本時の学習内容の概略	・硬さと強さ(引張強さ)について復習する。 (硬い=強い、軟らかい=弱い) ・粘り強いという言葉の意味について確認する。 (粘り強い ←→ もろい)	・硬さと引張強さについてそれぞれ確認し、その後両者の関係についてグラフを用いて復習する。	・硬さと引張強さの関係を理解している。(知識・理解)
	展開1 25分	・材料に加わる荷重の種類 ・衝撃荷重で破壊しやすい材料と破壊しづらい材料について ・硬さと粘り強さの関係について ・鋼について、硬さと強さと粘り強さの関係について ・粘り強さの試験方法(シャルピー衝撃試験)について	・静荷重と動荷重(衝撃荷重)について、それぞれの実例を考えながら理解する。(同じ重さのおもりを静かに下ろしたときと上から落下させたときとの違いを説明する。) ・ゴムとガラスに衝撃荷重を加える(ハンマーで叩く)と、どうなるかを考えさせ、粘り強さとは何かを理解する。 ・ゴムとガラスの硬さと粘り強さの関係について表にまとめる。 ・針金と金鋸の歯を使用し、曲げに対する強さを確認する。次にハンマーで叩き、それぞれの粘り強さを確認し、鋼についての強さ・硬さと粘り強さの関係を表にまとめる。 ・粘り強さを定まった試験方法により数値として表すことが必要である事を理解し、シャルピー衝撃試験の原理を学ぶ。 ・代表的な2種類の材料について衝撃試験の結果を計算し、比較する。	・衝撃荷重が加わったとき、材料はどうなるかを考えさせる。 ・衝撃荷重でゴムとガラスがどの様になるか比較させる。 ・硬い=もろい、軟らかい=粘り強いということを理解させる。 ・硬い=強い=脆い、軟らかい=弱い=粘り強いということを理解させる。 ・強くても硬い材料ほど破壊に対して危険性があるということに気づかせる。 ・粘り強いという概念ではなく、数値が大切であることを理解させる。強さ・硬さも同様であることを確認する。	・粘り強さについて正しく理解している。(知識・理解) ・硬さと粘り強さの関係について正しく理解している。(知識・理解) ・鋼の性質について正しく理解している。(知識・理解) ・シャルピー衝撃試験について正しく理解している。(知識・理解)
	展開2 15分	・機械の部品や製品にはどのような工夫がなされているか。	・硬くて強い材料に粘り強さを持たせるためにはどうすればよいかを考え、その方法を理解する。 ・焼入れ、焼戻しによる方法 ・高周波焼き入れによる方法 ・2種類の材料を合わせる方法	・焼入れの方法や、2種類の材料をあわせる方法などを理解させる。 ・身近な製品にどのようなものがあるかを考えさせる。	・部品や製品の工夫についてワークシートに記入し、発表する。 (思考・判断) (技能・表現)
	まとめ 5分	・本時のまとめと次回の予告	・硬さと強さおよび粘り強さの関係について確認する。 ・粘り強さの試験方法であるシャルピー衝撃試験について確認する。	・机間指導を行い、ノートがまとめられているか確認する。 ・次回は疲労について学習する。	・鋼の機械的性質を適切に判断できる能力を身につけている。(思考・判断)
備考	・クラスの様子： ・準備するもの：針金、金鋸の歯、ハンマー、ゴム、ガラス、超硬バイト				

商業科学習指導案（例）

日	平成〇年〇月〇日（〇）	第〇校時	指 導 者	教 諭 〇 〇 〇 〇	
科・学年・組	商業科 〇年〇組(男子〇〇名・女子〇〇名)		使 用 教 室	〇年〇組HR	
単 元 名	第1章 商業のガイダンス ア 商業を学ぶ目的と学び方（4時間）		教 科 書	ビジネス基礎（〇〇出版）	
単元の目標	商業を学ぶことで、豊かな人間性、創造性、ビジネスの理解力と実践力など、ビジネスの基礎・基本の能力を身に付けることができることを理解させるとともに、自ら目標を定め、自ら学び、自ら考えるなどの主体的な学び方や生涯にわたり専門的能力を向上させる継続的な学び方について理解させる。				
単 元 の 評 価 規 準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	①ーア 生徒が将来かかわることになるビジネスに関心を持ち、ビジネスの世界の変化を自からすすんで調べたりまとめたりしようとする。 ①ーイ ビジネスの世界を生きるために必要とされている資質や能力について関心を持ち、自からすすんで調べたりまとめたりしようとする。 ①ーウ 自ら学ぶ目標を定め、自ら学び、自ら考えるなどの主体的な学び方や生涯にわたり専門的能力を向上させる継続的な学び方について関心を持ち、自から進んで調べたりまとめたりしようとする。	②ーア 生徒が将来かかわることになるビジネスについて、様々な角度から主体的かつ客観的に考察しようとする。 ②ーイ ビジネスの世界を生きるために必要とされている資質や能力について、様々な角度から主体的かつ客観的に考察しようとする。 ②ーウ 自ら学ぶ目標を定め、自ら学び、自ら考えるなどの主体的な学び方や生涯にわたり専門的能力を向上させる継続的な学び方について、様々な角度から主体的かつ客観的に考察しようとする。	③ーア 生徒が将来かかわることになるビジネスに関する様々な資料を適切に選択して活用し、具体的に説明することができる。 ③ーイ ビジネスの世界を生きるために必要とされている資質や能力に関する様々な資料を適切に選択して活用し、具体的に説明することができる。 ③ーウ 自ら学ぶ目標を定め、自ら学び、自ら考えるなどの主体的な学び方や生涯にわたり専門的能力を向上させる継続的な学び方に関する様々な資料を適切に選択して活用し、具体的に説明することができる。	④ーア 生徒が将来かかわることになるビジネスに関する基礎的・基本的事項を身に付けている。 ④ーイ ビジネスの世界を生きるために必要とされている資質や能力に関する基礎的・基本的事項を身に付けている。 ④ーウ 自ら学ぶ目標を定め、自ら学び、自ら考えるなどの主体的な学び方や生涯にわたり専門的能力を向上させる継続的な学び方に関する基礎的・基本的事項を身に付けている。	
	時 間	ね ら い ・ 学 習 活 動		単元の評価規準との関連	評価方法等
	第1時間 第2時間	○ねらい 生徒が将来かかわることになるビジネスの変化を、身近に起きている変化から読み取らせる。 ・身近に起きている社会生活の変化を考える。 ・ビジネスを取り巻く環境の変化について簡単に調べてみる。 ・ビジネスを取り巻く環境の変化について調査したことを発表する。 ・経済のグローバル化、高度情報通信ネットワーク化、科学技術の進展、少子・高齢化、生涯学習社会などビジネスの変化を理解する。 ・未来のビジネスの世界を生きるために必要とされている資質や能力について理解する。		①ーア ②ーア ③ーア ④ーア	・社会生活の変化や環境の変化について自分の考えを簡潔にまとめ、発表できるかを把握する。 ・近年のビジネスの変化についてノートにまとめさせることにより、理解度を把握する。
	第3時間	○ねらい 商業を学ぶ目的についてガイダンスを行い、新学力観「生きる力」と商業教育の目指す能力（ビジネスの理解力と実践力）のかかわりについて考察させる。 ・商業を学ぶ目的としているビジネスの基礎・基本の能力について理解する。 ・「豊かな人間性」とは何か、「創造性・主体性」とは何かについて、小グループで討議する。 ・「豊かな人間性」「創造性」について、討議した結果をまとめ、発表する。 ・ビジネスの理解力と実践力について確認し、「豊かな人間性」「創造性」「主体性」などのかかわりについて考察する。		①ーイ ②ーイ ③ーイ ④ーイ	・グループ討議において、積極的に話し合いに参加しているか取組状況について観察する。 ・「豊かな人間性」「創造性」についてどのように理解しているか発表を通して把握する。
第4時間	○ねらい 商業の学び方や卒業後の進路などについてガイダンスを行い、継続学習の中で専門的能力を身に付ける重要性について理解させる。 ・自ら学ぶ目標を定め、自ら考え、自ら学ぶなどの主体的な学び方について理解する。 ・学校の教育課程について理解するとともに、商業科の特徴や選択科目の内容について理解する。 ・今後の自らの学び方について判断しまとめる。		①ーウ ②ーウ ③ーウ ④ーウ	・人生設計（ワークシート）が完成したかを確認する。 ・各自の目標をワークシートにまとめさせることにより継続的な学びについての理解度を確認する。	

本時の目標 (第4時間目)		なぜ商業科目を学ぶのか、どのように商業科目を学ぶのかについて基礎的・基本的な知識を理解し、自分の学習や進路の決定に生かすことができるようにする。また、学校の教育課程を理解し、自分の進路にあった科目を選択できるようにする。			
段階	学習内容	学習活動	時間	指導上の留意点	評価
導入	・前時までの復習、確認	・前時の「豊かな人間性」「創造性」の発表の中で、印象に残ったことについて発表する。	5分	・「生きる力」と商業教育の目指す能力(ビジネスの理解力と実践力)のかかわりについて再度確認する。	・発表態度 【技能・表現】 【知識・理解】 ・聴取態度 【関心・意欲・態度】
展開	・本校の歴史や地域での位置付けや役割、実績について	・どうして自分がこの学校に進学したのか、この学校で何がやりたいのかについてワークシートにまとめる。	10分	・机間指導をしながら生徒がどのようなことを書いているか把握する。 ・悩んでいる生徒に対し、指導・援助を行う。 ・合格したときの感激をもう一度思い出させることにより、学習意欲を喚起できるよう促す。	・ワークシートの記入に際し自己を振り返りながら、自ら進んで調べたりまとめたりしようとしている。 【関心・意欲・態度】
	・学校の教育課程について	・学校紹介パンフレットを見て、学校の歴史や実績等について確認する。また、商業科の特徴についても考える。 ・教育課程表を見て、商業科の特徴、選択科目の内容について考える。 ・自分の進路を考え、どの選択科目を履修することが目標を達成させるのに適しているかについてワークシートにまとめる。	5分 15分	・パンフレットをもとに学校の歴史や実績等について説明するとともに、商業高校で学ぶ意義について説明し、商業高校で学ぶ目的をよく考えさせる。 ・履修科目、原則履修科目、卒業に必要な修得単位数などについて説明し理解を図る。 ・学校の教育課程表を活用し、商業科の特色を分かりやすく説明する。特に、選択科目については、なぜ、選択になっているのか、また、進路希望によって履修する科目が違ふことを十分説明する。 ・進路意識の低い生徒に対し、進路目標を設定することの重要性について説明し、意識の高揚を図る。 ・学科やコースの目標や履修方法等について分かりやすく説明する。	・商業科の特徴を様々な角度から主体的に考察しようとしている。 【思考・判断】
	・卒業生の進路について	・卒業生の進路について、進路の手引を見て確認し、ワークシートに自分の進路希望等を記入する。	10分	・商業高校卒業後の就職について、進路の手引を用いて説明する。 ・学習分野と関係の深い就職先について説明する。 ・商業高校卒業後の進学について、進路の手引を用いて説明する。 ・学習分野と関係の深い進学先について説明する。	・自分なりの将来の目標を設定する際、資料を適切に選択して活用し、具体的に表現することができる。 【技能・表現】
まとめ	・本時の補足	・どのようにすれば、自分の進路目標が達成できるのかについてワークシートにまとめる。	5分	・机間指導をしながら生徒がどのようなことを書いているか把握する。 ・次時は、検定試験について説明することを伝え、各自、取得したい検定を考えてくるよう指導する。	・進路目標を達成するための方策について基礎的・基本的事項を身に付けている。 【知識・理解】
備考	○クラスの様子： 全体的に明るくクラスで、積極的に学習する雰囲気がある。 ○用意する物： ワークシート、学校紹介のパンフレット、教育課程表、進路の手引				

福祉（生活支援技術）学習指導案（例）

日 時	平成〇年〇月〇日（ ）第〇校時
学年・組	〇〇科〇年〇組（ 名）
教 材	教科書名（出版社名）資料名（出版社名）
指 導 者	教諭 〇〇 〇〇

1 単元名 「食事の介護」

2 単元の目標

食事の意義と、高齢者や障害者の自立と快適な生活に向けた食事のあり方を理解させ、食事介護に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせる。また、食事介護の望ましい在り方について考えを深めさせるとともに、よりよい食事介護を目指して意欲的に取り組む態度を養う。

3 単元設定の理由

(1) 教材観

「食事」は生徒にとって身近な教材であり、興味関心を持って取り組むと思われる。生徒自身の食生活を振り返らせながら、食事のもつ意義を考えさせる。また、食事介護では「食べもの」を取り扱うということから、介護する側の清潔について再認識させたい。そして、利用者の自立と快適な生活のための、望ましい介護方法について考えさせたい。

(2) 指導観

介護者は利用者の生命を守り、安全・安楽に過ごせるような技術の提供をしなければならない。校内実習ではあるが、実際に利用者に接するようしっかりとした服装・態度で臨ませたい。また、高齢者の食事介護における誤嚥などの事故予防や緊急時の対処法についても十分理解させたい。

(3) 生徒観

専門科目に対する興味・関心が高く、積極的に授業に取り組む姿勢が伺える。男子が多く、クラスのまとまりもよいが、授業や校内実習にも慣れ、緊張感に欠ける生徒も見られる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
食事の介護について関心をもち、高齢者や障害者の自立と快適な生活のための、よりよい食事の介護を目指して意欲的に取り組んでいる。	食事の意義について考えを深め、高齢者や障害者の自立と快適な生活のための食事の介護に関する課題を見だし、その望ましい在り方について考察している。	高齢者や障害者の自立と快適な生活のための食事の介護に関して、基礎的・基本的な技術を身に付け、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現している。	食事の意義や高齢者や障害者の自立と快適な生活へ向けた食事のあり方を理解し、食事の介護に関する基本的な知識を身に付けている。

5 単元の指導計画（総時間数12時間；本時9、10/12）

	学習内容	評価計画
第1時	<p>1 食事の意義と食事摂取の基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食べることの意義 ○食べることのメカニズム ○食事のアセスメント 	<ul style="list-style-type: none"> ○食べるということは生命の維持、健康の増進、病気の回復にとって重要であることを理解し、食事の意義について考えを深めている。【知】【思】 ○食べるということについて解剖生理学的に理解する。【知】 ○食事に関するアセスメントの方法を理解する。【知】
第5時	<p>2 食事介護の実際と事故の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食事介護の原則 ○食材の購入から調理まで ○誤嚥・窒息の防止 ○脱水の徴候と予防 	<ul style="list-style-type: none"> ○食事介助の原則を理解し、その具体的な方法に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。【知】【技】 ○嚥下運動について理解し、誤嚥や窒息の予防法と対処法を身に付けている。【知】【技】 ○脱水の徴候と予防法について理解する。【知】
第9時	<p>3 食事介護（実習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○座位での食事介助 ○仰臥位での食事介助 ○アイマスクをしての食事摂取 ○食事の形態（常食、きざみ食、ムース状、流動食、とろみ水） 	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者の状況に応じた安全・安楽な食事介助の在り方について考え、利用者に声をかけて反応を確かめながら介護している。【思】【技】 ○体位や食事の形態による嚥下の違いについて理解し、状況に合わせて適切に介助している。【知】【技】 ○高齢者や障害者の自立と快適な生活のための、よりよい食事の介護を目指して、周囲と意見交換を行いながら、意欲的に取り組んでいる。【関】

6 本時の指導（第9、10時）

(1) 主 題 食事介護（実習）

(2) 目 標

体位や食事の形態による嚥下の違いについて理解させるとともに、利用者の状況に応じた安全・安楽な食事介助の在り方について考えさせ、適切な食事介助の方法を身に付けさせる。

(3) 授業展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価〔評価方法〕
導 入 (10)	食事介護の実習方法 (必要物品、手順等の 確認)	○本時の実習内容、方法を 確認する。	○ホワイトボードに整 理しておく。 ○補助教員が服装の確 認をする。	板書 実習要項 実習レポート
展 開 (70)	①利用者の準備と配膳 ②仰臥位の状態での介 護 ③視覚障害者のベッド 上座位での介護 (アイマスク使用) ④ベッド上座位で自分 で食べる（利き手は麻 痺側とする） ⑤役割の交代	○利用者に説明をして、安 楽で安定した体位をとら せる。 ○襟元にタオルを掛ける。 ○配膳をする。 ○おしぼりで利用者の手を 拭く。 ○食事の内容を説明する ○誤嚥のないように介護を する。 ○食事の摂取状況を観察す る。 ○視覚障害があることに配 慮して、食事介護を行う。 ○クロックポジションにつ いて確認する。 ○自分のペースで食べる ・利き手でない方で食べる ○①～④の学習を、利用者 と介護者の役割を交代し て再度実施する。	○利用者の準備の指導、 配膳の指導を補助教 員と分担する。 ○教員1人が5ベッ ドを担当し、巡回指導 を行う。 ○利用者に嚥下の状態 を聞いたり、介護す るペースは適切かを 確認したりするよう 促す。 ○利用者の食べるペー スや表情の違いなど を観察させる。 ○交代のタイミングを 指示する。	○食事介護に必要な物 品をそろえて適切に 配置したり、食事を するための体位を整 えたりしている。 【技能・表現】〔観察〕 ○利用者の状況に応じ た安全・安楽な食事 介助の在り方につ いて考え、利用者に声 をかけて反応を確か めながら介護してい る。 【思考・判断】【技能・ 表現】 〔観察、実習レポート〕 ○体位や食事の形態に よる嚥下の違いにつ いて観察して理解し、 それらの状況に合わ せた適切な食事介護 を行っている。 【知識・理解】【技能・ 表現】 〔観察、実習レポート〕
ま と め (20)	授業の振り返り 後片づけ	○利用者と介護者、それぞ れの立場での感想を発表 する。 ○実習レポートをまとめて 提出する。	○各ベッド1名ずつ発 表させる。 ○意見をまとめ、次の 実習に生かすよう指 導する。	

生活単元学習 学習指導案（例）

日 時 平成 年 月 日（ ）
10：00～10：45（第2校時）
学部・学年 小学部5年生（8名）
場 所 調理室
指 導 者 ○○○○（T1） ○○○○（T2）
○○○○（T3） ○○○○（T4）

1 単元名 「お楽しみ会をしよう」

2 単元設定の理由

本学年は、男子5名、女子3名の計8名で構成されている。また、8名中4名が自閉症を併せ有し、2名がダウン症である。児童の実態は様々で、知的障害の程度は中度から重度である。また、おおむね日常生活における指示は理解できるが表出言語のない児童や言語の不明瞭な児童も多いため、マカトン法を中心としたコミュニケーションサインや写真カードを授業などでも取り入れている。一方、文字を読んだり、教師の発問に答えたりすることができる児童もいる。しかし、生活経験が乏しく、教師の援助や指示を待っている児童が多い。興味・関心の対象も大きく異なり、自由遊びの時間は、それぞれが一人で好きな活動をしている。

給食の時などは各児童ごとに偏食が見られるが、共通して好んで食べることができたデザートはプリンであった。

本単元では、お楽しみ会を開催するという目標に向かい、各児童が見通しをもちながら、協力し合いながら、買い物の計画を立て実際に店で買い物をしたり、教師と一緒に好物のプリンを調理したり、また、お楽しみ会を楽しむなどの体験をすることができると考えられる。なお、お楽しみ会当日の活動の中には、1学期間の活動を振り返る機会も取り入れ、1学期の学習のまとめの意味ももたせることが有効であると考え、そうした機会も設定した。

これらのことから、総合的な学習活動を通し、自立的な生活をするための基礎的能力と態度を培うとともに、集団生活への参加に必要な態度や技能をはぐくむことをねらい、本単元を設定した。

3 単元の指導目標

- (1) 1学期の活動を振り返ったり、これからの活動についてやりたいことを考えることができる。
- (2) 友達と協力し、道具や器具を用い調理することができる。
- (3) 見通しをもって活動に積極的に参加することができる。

4 指導計画と本時の位置（9時間扱い）

第一次：2時間 1学期の振り返りとお楽しみ会の計画

第二次：5時間 プリンを作ろう

- ①準備する材料と作り方、役割分担について
- ②買い物学習
- ③プリン作り（本時7/9）

第三次：2時間 お楽しみ会

- ①プロジェクターの映像で1学期を振り返る。

- ②プリンの会食
- ③1学期の音楽の時間に学習した歌の合唱など
- ④ゲーム大会

5 本時の指導

(1) 題材名 プリンを作ろう

(2) 本時の目標

- ① 友達と協力して調理に取り組むことができる。
- ② 調理器具の扱い方が分かり安全に調理することができる。

(3) 児童生徒の実態

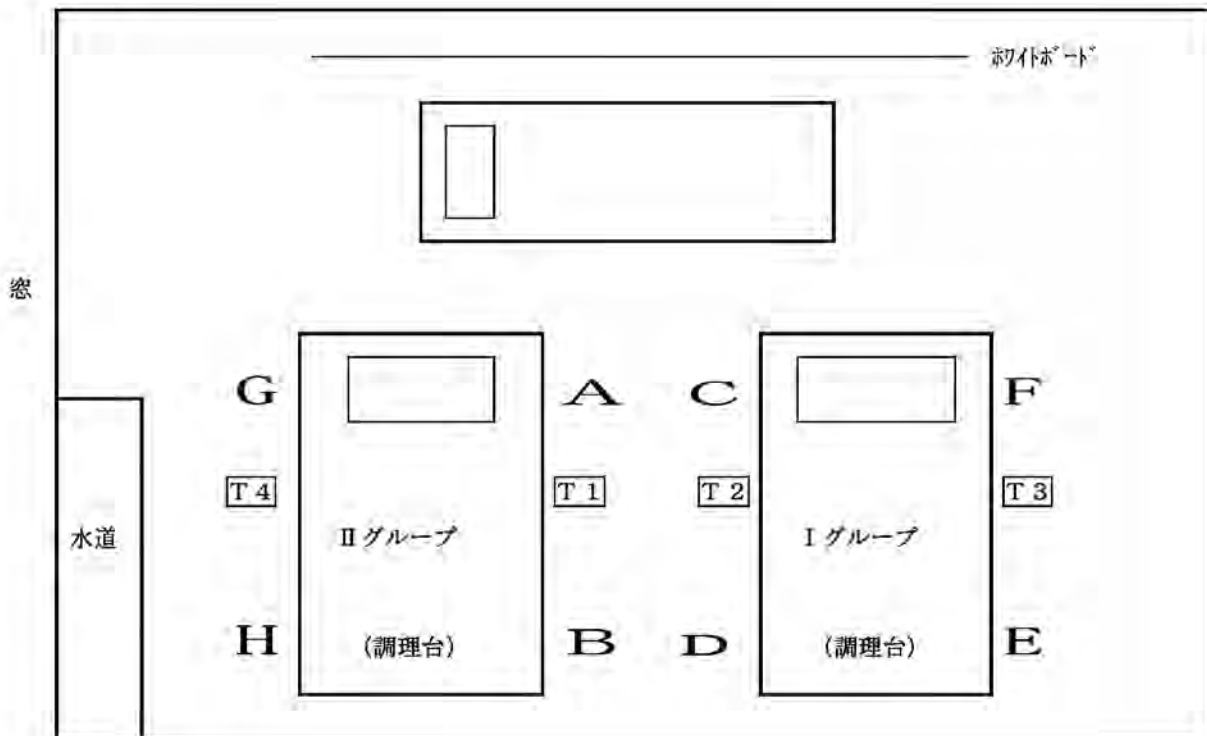
① 学習集団の構成

本学級の児童8名を二人ずつのグループに分けて学習を行う。グループ分けについては、児童の特徴や相性を考慮しながら、活動のモデルとなり積極的に活動できる児童と、教師の援助のもと他児の行動を模倣しながら活動を行う必要がある児童を組み合わせる1組とした。ほとんどの児童は食べ物や調理に関する興味・関心が非常に高いので児童の活動を明確にし、分かりやすい授業を展開することで、集中して授業に取り組むことが期待される。ただし、いつもと異なる場所や学習展開では不安定になってしまう児童もいるので、学習の見通しがもてるよう十分な配慮をしていく必要がある。

② 児童の実態及び本時の個別目標と個別の評価（別紙1）

(4) 展開（別紙2）

(5) 教室配置図



別紙1 児童の実態及び本時の個別目標と個別の評価

名・性	個別の指導目標 (個別の指導計画より)	本時に関する実態	本時の個別目標	評価の観点	評価
A 男	・簡単な作業に取り組むことができる。	・調理に大変興味があり、材料や手順をすぐに覚え、積極的に取り組むことができる。しかし、調理の経験が乏しく、きめ細かい言葉かけなどの援助が必要である。 ・田中ピネー IQ 65 S-M社会生活能力検査 SQ 60 (項目別の数値等は省略)	・道具や材料についての発問に答えることができる。 ・決められた量の熱湯を安全に注ぐことができる。	・教師の発問に自分で考え答えられたか。 ・熱湯に触れないように注意しながら、熱湯を決められた量だけボールに注ぐことができたか。	
B 男	・教師や友達と一緒に調理に参加することができる。	・調理ができあがるまで待たないで落ち着かなくなることはあるが、調理実習への関心は高い。いつもと違う環境には不安を感じてしまうことが多い。 ・自閉症 田中ピネー IQ 39 S-M社会生活能力検査 SQ 32 (項目別の数値等は省略)	・教師と一緒に号令をかけることができる。 ・教師の援助を受けながらプリンをボールに入れることができる。	・教師の示範をまねて号令をかけることができたか。 ・教師の促しや指示を聞いてボールにプリンをボールに入れることができたか。	
C 男	・教師の援助を受けながら進んで調理に取り組むことができる。	・食べ物への関心は高い。教師の言葉による指示の理解は難しく、指さしや手添えなどの具体的な支援が必要である。 ・ダウン症候群 田中ピネー IQ 40 S-M社会生活能力検査 SQ 42 (項目別の数値等は省略)	・教師や友達と一緒に材料を運ぶことができる。 ・こぼさないで、カラメルシロップやプリン液をかきまぜることができる。	・教師の言葉かけで友達と一緒に材料を運ぶことができたか。 ・片手でボールを押さえて、もう一方の手でかきまぜることができたか。	
D 男	・手元をよく見て作業することができる。	・調理実習への関心が高く活動の手順も理解できる。教師の指示はある程度理解できるが、いつもと違う環境になると気分が高ぶりやすく、友達へ過度のかかわりが多くみられる。 ・田中ピネー IQ 59 S-M社会生活能力検査 SQ 65 (項目別の数値等は省略)	・教師の指示を聞いた後写真で確認したりして材料と道具類の準備ができる。 ・泡立て器を使ってプリン液をかきまぜることができる。	・指示に従い、まちがえずに材料や道具類をテーブルまで運ぶことができたか。 ・はねないように注意しながらプリン液をかきまぜることができたか。	

E 女	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に活動に参加することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物への関心は高い。言葉による指示の理解は難しい。友達や教師の活動に興味を示すことは少ない。教師の援助は素直に受け入れ活動することができる。 ・自閉症 田中ビネー IQ38 S-M社会生活能力検査 SQ65 (項目別の数値等は省略) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に材料や道具の準備ができる。 ・教師と一緒にプリン液をかきまぜることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が渡した材料や道具をテーブルまで運ぶことができたか。 ・泡立て器を使い、プリン液をよく見ながらかきまぜることができたか。 	
F 男	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な調理に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習には大変興味がある。準備物や簡単なレシピの理解力が高く、積極的に取り組むことができる。 ・田中ビネー IQ61 S-M社会生活能力検査 SQ70 (項目別の数値等は省略) 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な食器を、食器棚から協力して運ぶことができる。 ・決められた量の熱湯を安全に注ぐことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食器棚から、必要な食器を、メモを見ながら選んでテーブルまで運ぶことができたか。 ・熱湯に触れないように注意しながら、熱湯の量を自分で判断してボールに注ぐことができたか。 	
G 女	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習には大変興味があり、事前学習で学習した内容(料理名や材料)を覚えていることができる。道具類の扱いはあまり得意でない。 ・ダウン症候群 田中ビネー IQ50 S-M社会生活能力検査 SQ47 (項目別の数値等は省略) 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な食器を、食器棚から協力して運ぶことができる。 ・プリンの素や牛乳の量を加減しながらボールに入れることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食器棚から、必要な食器を、メモを見ながら選んでテーブルまで運ぶことができたか。 ・こぼさないでプリンの素や牛乳をボールに入れることができたか。 	
H 女	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の示範に従い調理に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理への関心は高い。調理器具の扱いが上手である。初めての場所や初対面の人が多い環境では不安定になり泣き出してしまふこともある。 ・自閉症 田中ビネー IQ53 S-M社会生活能力検査 SQ50 (項目別の数値等は省略) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の示範を見ながらカラメルシロップをつくることができる。 ・教師の言葉かけでスプーンを配ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の示範をまねてカラメルシロップをつくれたか。 ・過不足をがないように注意して、グループの人数分のスプーンを配れたか。 	

*評価 ○：よくできた ○：できた △：目標や支援の方法が不適切

児童の活動・教師の活動・児童の学習課題										準備物等
学習の流れ	A (T1)	B (T1)	C (T2)	D (T2)	E (T3)	F (T3)	G (T4)	H (T4)	指導上の留意点	
1 あ い さ つ を す る。	T1 ・当番の児童に あいさつを促す。 ・Bに号令の サインを促す。	前に出て教 師と一緒に 号令をかけ る。							・気持ちのよいあ いさつ、言葉づ かい、動作及び 明るい態度を心 がける。	
		号令にあわせてあいさつをする。								・写真や実物を使 い分けやすい 説明を心がける。 ・お楽しみ会に向 けた一貫である ことを確認する。
2 前 時 ま で の 学 習 と 本 時 の 学 習 内 容 に つ い て 明 確 認 す る。	T1 ・前時までの 復習及び、 材料と作り 方の確認を する。 ・本時の学習 の説明をす る。								・写真や実物を使 い分けやすい 説明を心がける。 ・お楽しみ会に向 けた一貫である ことを確認する。	
		前時までの学習を思い出す。								・材料、道具類の 写真を確認し、な がら実物も呈示 する。
5 分				本時の学習の説明を聞き、見直しをもつ。					・材料、道具類の 写真を確認し、な がら実物も呈示 する。	
3 準 備 を す る。	T1 ・エプロンの 着用、手洗 いを促す。 ・必要な材料 や道具類を 準備する。								・自分でやるよう な態度を大切 にし、エプロ ンに着用の支 援を行う。 ・指し示がわか りやすい場合 は、材料や道 具類の写真を 見せたり、実 物を用いたり する。	
		身支度を整え手洗いをする。								・エプロン、カ ラメルシ ロップの 素、牛乳 のお湯、 道具類、 ボール、 計量カッ プ、泡立 て器、ス プーン
4 プ リ ン を つ く る。 ① カ ラ メ ル シ ロ ッ プ を つ く り	T1 ・カラメルシ ロップのつ くり方を説 明する。	お湯をわか し、ポット に入れる。	教師の指示 に従って、 ボールをふ く。	教師の指示で、材料置き 場からボール、カラ メルシロップ、牛乳を協 力してテーパー、牛乳 まで運ぶ。					・自分でするよう な態度を大切 にし、エプロ ンに着用の支 援を行う。 ・指し示がわか りやすい場合 は、材料や道 具類の写真を 見せたり、実 物を用いたり する。	
		友達と協力しながら材料や道具類を用意する。								・二人一組で、役割 とボールを支え る役割を体験 させる。
展 開	T1 ・カラメルシ ロップのつ くり方を説 明する。	お湯をわか し、ポット に入れる。	教師の指示 に従って、 ボールをふ く。	教師の指示で、材料置き 場からボール、カラ メルシロップ、牛乳を協 力してテーパー、牛乳 まで運ぶ。					・二人一組で、役割 とボールを支え る役割を体験 させる。	
		下記の工程でカラメルシロップをつくる。②カラメルシロップの素をボールに入れる。③計量カップで水の量を測り、ボールに水を入れる。④かき混ぜる。								・二人一組で、役割 とボールを支え る役割を体験 させる。
展 開	T1 ・カラメルシ ロップのつ くり方を説 明する。	お湯をわか し、ポット に入れる。	教師の指示 に従って、 ボールをふ く。	教師の指示で、材料置き 場からボール、カラ メルシロップ、牛乳を協 力してテーパー、牛乳 まで運ぶ。					・二人一組で、役割 とボールを支え る役割を体験 させる。	
		友達の指示で、材料置き場からボール、カラメルシロップ、牛乳を協力して運ぶ。E児にはT3が同行し援助する。								・二人一組で、役割 とボールを支え る役割を体験 させる。
展 開	T1 ・カラメルシ ロップのつ くり方を説 明する。	お湯をわか し、ポット に入れる。	教師の指示 に従って、 ボールをふ く。	教師の指示で、材料置き 場からボール、カラ メルシロップ、牛乳を協 力してテーパー、牛乳 まで運ぶ。					・二人一組で、役割 とボールを支え る役割を体験 させる。	
		下記の工程でカラメルシロップをつくる。②カラメルシロップの素をボールに入れる。③計量カップで水の量を測り、ボールに水を入れる。④かき混ぜる。								・二人一組で、役割 とボールを支え る役割を体験 させる。
展 開	T1 ・カラメルシ ロップのつ くり方を説 明する。	お湯をわか し、ポット に入れる。	教師の指示 に従って、 ボールをふ く。	教師の指示で、材料置き 場からボール、カラ メルシロップ、牛乳を協 力してテーパー、牛乳 まで運ぶ。					・二人一組で、役割 とボールを支え る役割を体験 させる。	
		下記の工程でカラメルシロップをつくる。②カラメルシロップの素をボールに入れる。③計量カップで水の量を測り、ボールに水を入れる。④かき混ぜる。								・二人一組で、役割 とボールを支え る役割を体験 させる。
展 開	T1 ・カラメルシ ロップのつ くり方を説 明する。	お湯をわか し、ポット に入れる。	教師の指示 に従って、 ボールをふ く。	教師の指示で、材料置き 場からボール、カラ メルシロップ、牛乳を協 力してテーパー、牛乳 まで運ぶ。					・二人一組で、役割 とボールを支え る役割を体験 させる。	
		下記の工程でカラメルシロップをつくる。②カラメルシロップの素をボールに入れる。③計量カップで水の量を測り、ボールに水を入れる。④かき混ぜる。								・二人一組で、役割 とボールを支え る役割を体験 させる。

